

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 2023年3月1日
(第28期) 至 2024年2月29日

株式会社イオンファンタジー

千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1

(E05264)

目次

頁

表紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	4
4. 関係会社の状況	5
5. 従業員の状況	6
第2 事業の状況	7
1. 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等	7
2. サステナビリティに関する考え方及び取組	8
3. 事業等のリスク	12
4. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	13
5. 経営上の重要な契約等	20
6. 研究開発活動	20
第3 設備の状況	21
1. 設備投資等の概要	21
2. 主要な設備の状況	21
3. 設備の新設、除却等の計画	22
第4 提出会社の状況	24
1. 株式等の状況	24
(1) 株式の総数等	24
(2) 新株予約権等の状況	25
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	30
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	31
(5) 所有者別状況	31
(6) 大株主の状況	32
(7) 議決権の状況	32
2. 自己株式の取得等の状況	33
3. 配当政策	34
4. コーポレート・ガバナンスの状況等	35
(1) コーポレート・ガバナンスの概要	35
(2) 役員の状況	40
(3) 監査の状況	45
(4) 役員の報酬等	47
(5) 株式の保有状況	49
5. 経理の状況	51
1. 連結財務諸表等	52
(1) 連結財務諸表	52
(2) その他	89
2. 財務諸表等	90
(1) 財務諸表	90
(2) 主な資産及び負債の内容	102
(3) その他	102
第6 提出会社の株式事務の概要	103
第7 提出会社の参考情報	104
1. 提出会社の親会社等の情報	104
2. その他の参考情報	104
第二部 提出会社の保証会社等の情報	104
監査報告書	

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年5月22日

【事業年度】 第28期(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

【会社名】 株式会社イオンファンタジー

【英訳名】 AEON Fantasy Co.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藤原 徳也

【本店の所在の場所】 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1

【電話番号】 043(212)6203(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員 管理統括兼リスクマネジメント担当
井関 義徳

【最寄りの連絡場所】 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目6番地

【電話番号】 043(212)6203(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員 管理統括兼リスクマネジメント担当
井関 義徳

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第24期	第25期	第26期	第27期	第28期
決算年月	2020年2月	2021年2月	2022年2月	2023年2月	2024年2月
売上高 (千円)	73,492,760	46,116,449	60,170,526	72,690,638	81,758,939
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	2,387,388	△7,719,532	△3,385,152	1,318,081	4,488,507
親会社株主に帰属する 当期純利益又は 親会社株主に帰属する 当期純損失 (△) (千円)	△325,107	△9,277,016	△4,507,664	△3,376,595	1,314,661
包括利益 (千円)	△641,620	△9,422,810	△4,487,715	△3,505,276	586,658
純資産額 (千円)	27,128,638	16,922,707	11,841,771	8,138,352	8,541,051
総資産額 (千円)	55,739,580	53,961,921	51,235,496	46,917,307	52,303,062
1株当たり純資産額 (円)	1,348.77	844.86	591.51	401.98	419.70
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失 (△) (円)	△16.47	△469.51	△228.07	△170.82	66.50
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	66.46
自己資本比率 (%)	47.8	30.9	22.8	16.9	15.9
自己資本利益率 (%)	△1.2	△42.8	△31.8	△34.4	16.2
株価収益率 (倍)	—	—	—	—	34.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	10,271,056	183,579	6,176,752	9,057,758	12,056,700
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△10,849,726	△6,964,857	△7,091,244	△4,845,571	△10,725,119
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	96,686	8,445,647	1,395,130	△4,379,854	△97,363
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	4,132,140	5,718,115	5,986,843	6,058,627	7,491,499
従業員数 (名)	4,115	4,695	4,140	4,361	4,539
[ほか、平均臨時雇用者数]	[3,530]	[2,823]	[3,040]	[3,071]	[3,102]

- (注) 1. 第24期から第27期までの潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。
2. 第24期から第27期までの株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第27期の期首から適用しており、第27期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第24期	第25期	第26期	第27期	第28期
決算年月	2020年 2 月	2021年 2 月	2022年 2 月	2023年 2 月	2024年 2 月
売上高 (千円)	59,856,002	38,227,392	50,410,177	58,824,601	64,475,957
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	4,450,576	△5,958,625	△1,007,717	3,669,081	6,242,605
当期純損失 (△) (千円)	△552,683	△8,794,198	△5,505,843	△3,938,874	△368,253
資本金 (千円)	1,785,403	1,798,427	1,806,987	1,806,987	1,810,821
発行済株式総数 (株)	19,751,625	19,762,025	19,768,825	19,768,825	19,771,725
純資産額 (千円)	27,550,220	17,972,901	11,873,837	7,736,820	7,184,608
総資産額 (千円)	37,582,485	40,564,583	40,988,712	43,925,833	51,477,436
1株当たり純資産額 (円)	1,391.53	907.08	599.10	389.81	361.50
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	50 (25.00)	30 (15.00)	20 (15.00)	10 (5.00)	10 (5.00)
1株当たり当期純損失 (△) (円)	△27.99	△445.08	△278.57	△199.27	△18.63
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	73.1	44.2	28.9	17.5	13.9
自己資本利益率 (%)	△2.0	△38.7	△37.0	△40.3	△5.0
株価収益率 (倍)	—	—	—	—	—
配当性向 (%)	—	—	—	—	—
従業員数 [ほか、平均臨時雇用者数] (名)	473 [3,530]	501 [2,823]	766 [3,040]	780 [3,071]	862 [3,102]
株主総利回り (%)	71.6	98.5	78.1	108.1	92.0
(比較指標：配当込みTOPIX) (%)	(96.4)	(121.8)	(125.9)	(136.6)	(188.0)
最高株価 (円)	3,390	2,597	2,593	3,815	3,890
最低株価 (円)	1,833	1,192	1,700	1,789	2,295

- (注) 1. 第24期から第28期までの潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。
2. 第24期から第28期までの株価収益率及び配当性向については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。
3. 最高株価及び最低株価は、2022年4月4日より東京証券取引所（プライム市場）におけるものであり、それ以前は東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。
4. 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第27期の期首から適用しており、第27期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

年月	事項
1997年2月	ショッピングセンター内の室内ゆうえんち事業を目的として、千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1に株式会社イオンファンタジーを資本金5千万円で設立
1997年3月	ジャスコ株式会社（2001年8月21日付でイオン株式会社に社名変更）より58店舗を譲受け、営業を開始
1999年11月	名古屋みなと店開店をもって直営店舗100店舗を達成
2002年2月	日本証券業協会（現東京証券取引所JASDAQ）に登録
2003年11月	東京証券取引所市場第二部に上場
2005年2月	東京証券取引所市場第一部銘柄に指定
2005年7月	石巻東店開店をもって直営店舗200店舗を達成
2006年3月	株式会社マイカルクリエイトの全株式を取得
2006年8月	株式会社マイカルクリエイトを吸収合併（直営店舗数298店舗）
2006年9月	大日店開店をもって直営店舗300店舗を達成
2007年9月	永旺幻想（北京）児童遊楽有限公司（現・永旺幻想（中国）児童遊楽有限公司）を設立
2009年7月	ファンタジースキッズガーデンを与野店にて開始
2011年3月	AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD. を設立
2012年5月	AEON Fantasy (Thailand) Co., Ltd. を設立
2013年10月	国内及び海外の店舗名をモーリーファンタジーに統一
2013年11月	中国（広東省）中山興中広場店開店をもって400店舗を達成
2014年5月	AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC. を設立
2014年11月	PT. AEON FANTASY INDONESIA を設立
2014年12月	タイUDタウン店開店をもって500店舗を達成
2015年6月	株式会社ファンフィールドと合併
2016年4月	フィリピン ロビンソンタグム店をもって「イオンファンタジー キッズーナ」100店舗を達成
2016年5月	モーリーファンタジー出雲店開店をもって800店舗を達成
2017年7月	AEON FANTASY VIETNAM CO., LTD. を設立
2022年4月	東京証券取引所プライム市場を選択
2022年10月	世界で1,000店舗を達成

3 【事業の内容】

当社グループは当社、連結子会社7社で構成され、各社が営んでいる主な事業内容と当該事業に係る位置づけは、次のとおりであります。

(国内事業)

国内事業は当社1社で構成されており、当社はイオングループ及びその他のディベロッパーが運営するショッピングセンター内において、遊戯施設（ファミリー向けアミューズメント施設及びプレイグラウンド施設等）を展開しております。

(中国事業)

中国事業は、1社で構成されており、中国においてイオングループ及びその他のディベロッパーが運営するショッピングセンター内で遊戯施設の設置運営を行っております。

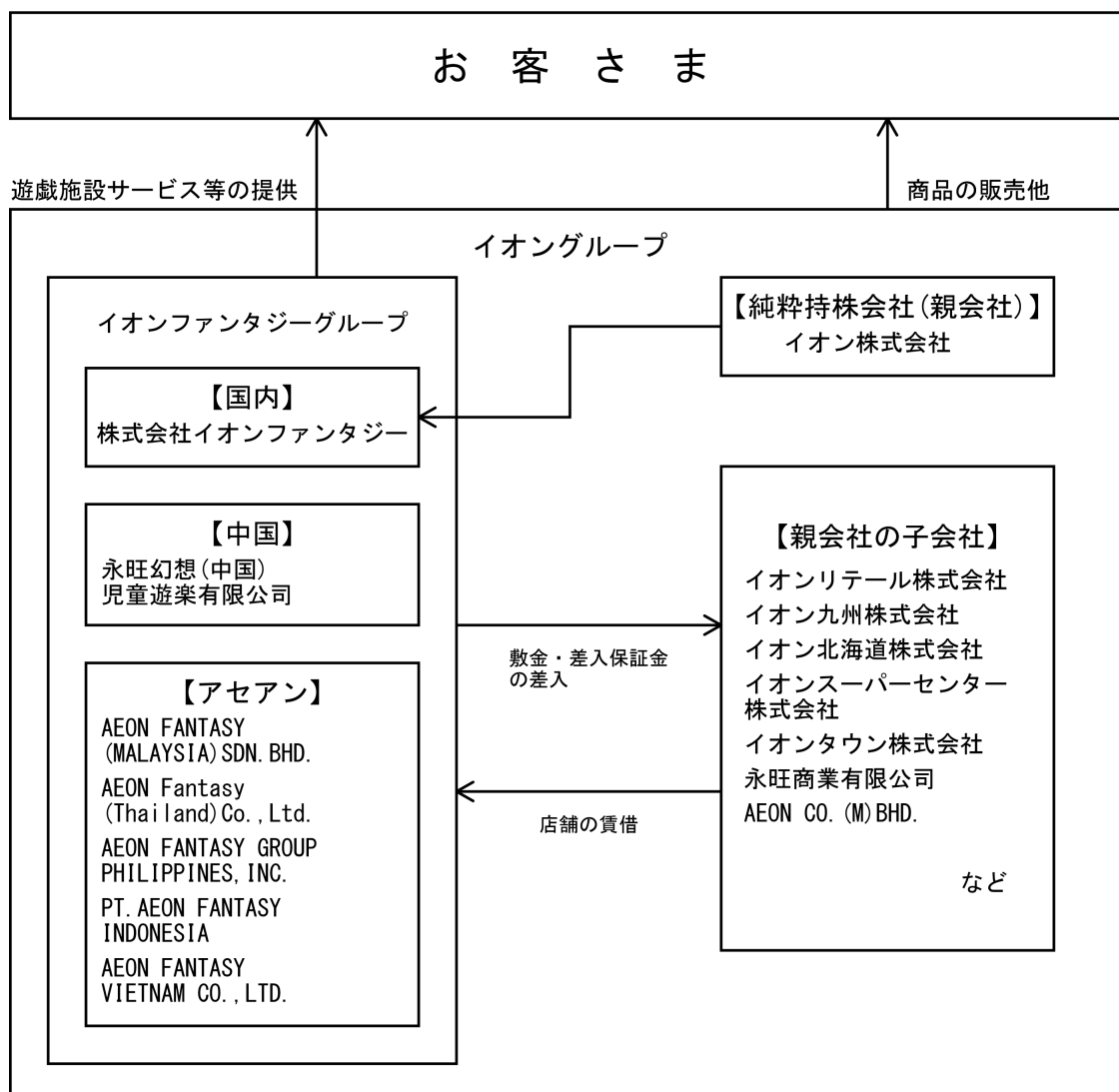
(アセアン事業)

アセアン事業は、6社（うち純粋持株会社1社）で構成されており、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、ベトナムにおいてイオングループ及びその他のディベロッパーが運営するショッピングセンター内において遊戯施設の設置運営を行っております。

当社の親会社は純粋持株会社イオン株式会社であります。GMS（総合スーパー）事業を核とした小売事業を中心として総合金融、ディベロッパー、サービス・専門店等の各事業を複合的に展開しております。

このようなイオングループの事業の中で、当社はサービス事業に区分され、主としてショッピングセンター内遊戯施設の運営を行っております。

以上述べました事項を事業系統図に示すと次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

親会社

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業内容	議決権の 被所有割合 (%)	関係内容
イオン株式会社	千葉県千葉市 美浜区	220,007,994	純粋持株会社	60.64 (2.52)	商標使用

(注) 1. イオン株式会社は有価証券報告書を提出しております。

2. 議決権の被所有割合の()内は、内書で間接所有の被所有割合であります。

連結子会社

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
永旺幻想(中国) 児童遊楽有限公司	中国 北京市	7,910,000 千円	サービス業	100.00	業務指導・資材の販売 債務保証・資金の貸付 役員の兼任1名
AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD.	マレーシア クアラルンプール	44,000 千リンギット	サービス業	80.00	業務指導・資材の販売 債務保証・資金の貸付 役員の兼任1名
AEON Fantasy (Thailand) Co., Ltd.	タイ バンコク	553,283 千バーツ	サービス業	100.00 (51.00)	業務指導・資材の販売 債務保証・資金の貸付 役員の兼任1名
AEON Fantasy Holdings (Thailand) Co., Ltd.	タイ バンコク	123,503 千バーツ	純粋持株会社	100.00 (51.00)	—
AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC.	フィリピン マニラ	700,000 千ペソ	サービス業	100.00	業務指導・資材の販売 債務保証・資金の貸付 役員の兼任1名
PT. AEON FANTASY INDONESIA	インドネシア ジャカルタ	15,339 千ドル	サービス業	100.00	業務指導・資材の販売 債務保証・資金の貸付 役員の兼任1名
AEON FANTASY VIETNAM CO., LTD.	ベトナム ホーチミン	6,272 千ドル	サービス業	65.00	業務指導・資材の販売 債務保証・資金の貸付

(注) 1. 議決権の所有割合の()内は、内書で間接所有の所有割合であります。

2. 永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司、AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD.、AEON Fantasy(Thailand)Co.,Ltd.、AEON Fantasy Holdings(Thailand)Co.,Ltd.、AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC.、PT. AEON FANTASY INDONESIA、AEON FANTASY VIETNAM CO., LTD. は特定子会社であります。

3. 永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司とAEON Fantasy(Thailand)Co.,Ltd. は債務超過会社であり、2024年2月末時点で永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司の債務超過額は11,130,423千円、AEON Fantasy(Thailand)Co.,Ltd.の債務超過額は1,184,896千円であります。

5 【従業員の状態】

(1) 連結会社の状況

2024年2月29日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
国内事業	862[3, 102]
中国事業	1, 177
アセアン事業	2, 500
合計	4, 539[3, 102]

(注) 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む)であり、パートナー社員(パートタイマー)の人数は、1日8時間で換算した年間の平均人数を〔 〕内に外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

2024年2月29日現在

区分	従業員数(名)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与(円)
正社員	845	44才 0ヵ月	15年 3ヵ月	4, 447, 967
契約社員	17	64才 4ヵ月	30年 7ヵ月	3, 845, 852
合計	862[3, 102]	44才 4ヵ月	15年 7ヵ月	4, 436, 362

(注) 1. 契約社員とは、1年毎に雇用契約を更新する嘱託社員であります。
 2. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む)であり、パートナー社員(パートタイマー)の人数は、1日8時間で換算した年間の平均人数を〔 〕内に外数で記載しております。
 3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合はイオンファンタジー労働組合と称し、2024年2月29日現在 4,185名であります。なお、労使関係は円満に推移しており、特記すべき事項はありません。

なお、連結子会社には、労働組合はありません。

(4) 管理職に占める女性従業員の割合、男性従業員の育児休業取得率及び従業員の男女の賃金の差異 提出会社

当事業年度					補足説明
管理職に占める女性従業員の割合(%) (注1)	男性従業員の育児休業取得率(%) (注2)	従業員の男女の賃金の差異(%) (注1)			
		全従業員	正規雇用従業員	パート・有期従業員	
53.5	100.0	77.5	71.5	104.4	—

(注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。
 2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

記載事項のうち将来に関する事項は、当連結会計年度末において判断したものであります。

(1) 成長拡大への取組み

当社グループを取巻く環境は、日本国内の少子化によるマーケット縮小、アセアン市場の成長、こどもとその家族を取り巻く価値の変化に加え、原材料や人件費等のコスト増加、更には気候変動と社会課題に対する企業姿勢への意識の高まり等、新たな変化が表れており、成長拡大に向けてはこれらの対応が急務となっております。

当社グループは2024年度から「新中期経営計画」（2024年度～2026年度）を推進してまいります。同計画では、経営課題として「市場の変化に合わせた自らの変革」及び「自社の強みを生かした成長戦略の推進」を掲げ、従来から推進してきた企業理念体系の整備を進め、パーパス実現に向けた企業の方向性を示す「ビジョン」を更新し、こどもとその家族に向けた新たな提供価値を基盤とした事業開発を推進してまいります。

また「イオン生活圏」等を背景とした当社独自の強みを生かした成長戦略を推進し、セグメント別方針としては国内事業では企業成長を支える原資創出機能を重視してまいります。アセアン事業では第2の成長ドライバーとなるべく業態のローカライズとエリア開発をスピードと密度を持って進めます。中国事業ではV字回復に向けた経営体制の構築と次世代成長につながるサービス開発を推進します。更にサステナビリティ方針並びにマテリアリティにもとづく倶楽部活動を継続し、持続可能な社会への貢献と企業価値向上の実現に向け邁進してまいります。

(国内事業)

国内事業では、顧客の新たな期待価値に対応した業態開発を推進してまいります。2023年3月に1号店を出店し、自然環境を学べる屋内施設として高い支持を頂いている「ちきゅうのにわ」を拡大させてまいります。

同様に2023年4月に1号店を出店しました、「モーリーファンタジー」に子育て支援機能を併設した「子育て支援複合施設」や、こども一人でも遊べる機能を持つ「スキップガーデン」の単独出店を継続拡大させ、こどもとその家族に向け、あそびを通じたこどもの成長と子育て支援としての提供価値を高めてまいります。

また、あそびの専門性に特化した業態である「カプセルトイ専門店」「プライズ専門店」については、引き続き出店領域を広げ、拡大してまいります。

そのほか、DXによる構造改革として、会員制度のデジタル化によるロイヤリティの拡大、イオングループとの会員IDの共通化等による集客拡大、本社および売場後方作業の効率化による人時生産性の拡大を図り、事業収益力向上を目指してまいります。

(アセアン事業)

アセアン事業では、コロナ以降の「あそび」へのニーズや需要は、依然として高く、各国共に業績の拡大が継続しております。このような需要増加に対応し、主力業態である「キッズーナ」に加え、プレイグラウンドのローカライズ化を進め、地域所得と施設規模別に店業態をパターン化することにより収益向上を図ります。また、商業施設の規模に応じた業態開発を推進し、ひとつの商業施設内に複数出店を図る事により事業収益性の密度と効率性を高めてまいります。エリア戦略としては、主要都市だけでなく、地方都市や小規模施設マーケットの地域にも積極的な出店を進めてまいります。国別には人口動態、経済成長、イオングループの出店戦略を踏まえ、経営資源の配分に優先順位と強弱をつけた成長戦略を推進してまいります。

(中国事業)

中国事業では、経済活動の不透明感が継続する中、スリムな経営体制の構築に向け不採算店舗の閉店及び本社管理コストの圧縮を図ります。同時に既存事業の主力である「アミューズメント業態」の効率化を推進する一方で、高い安全性と接客レベルに独自の強みを持つ「プレイグラウンド業態」を拡大し、競争優位性を活かした出店を進めてまいります。

また高ROI、ローリスクの「戦略的小型店」を積極的に拡大し、CSC（小規模SC）やスーパーへの出店を進め、主力事業の収益力の強化を進めてまいります。更に収益チャネルの多面化を目指し、ECサイトでのファミリー向け物販サービスを推進してまいります。

(2) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループの経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標（以下、「KPI」という。）は営業利益、ROE、自己資本比率であります。2024年度の目標値は売上高867億円、営業利益57億円、ROE15.4%、自己資本比率18.8%であります。当該KPIの各数値については有価証券報告書提出日現在において予測できる事情等を基礎とした合理的な判断に基づくものであり、その達成を保証するものではありません。

2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取り組みは、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) サステナビリティ全般に関する考え方及び取り組み

当社グループは、2021年に発表した中期経営計画（2021年度～2023年度）において企業活動の中核にESG視点を取り入れることを掲げ、サステナビリティ経営の一步をスタートいたしました。

翌2022年には、これまでの社是を昇華させた「パーパス」を制定、そしてサステナビリティ経営の方向性を示す「サステナビリティ方針」を策定いたしました。また、企業を持続的成長に向けた重要課題（マテリアリティ）を特定し、有価証券報告書提出日現在においては、S（社会面）で3つ、E（環境面）で1つ、G（ガバナンス面）で1つの合計5つの課題を設定しております。これらマテリアリティの実効性を高めるため、取締役・執行役員を含めた部署横断型チームをマテリアリティ毎に結成し、定期的な進捗管理を行いサステナビリティ経営の実効性を高めております。

「サステナビリティ方針」

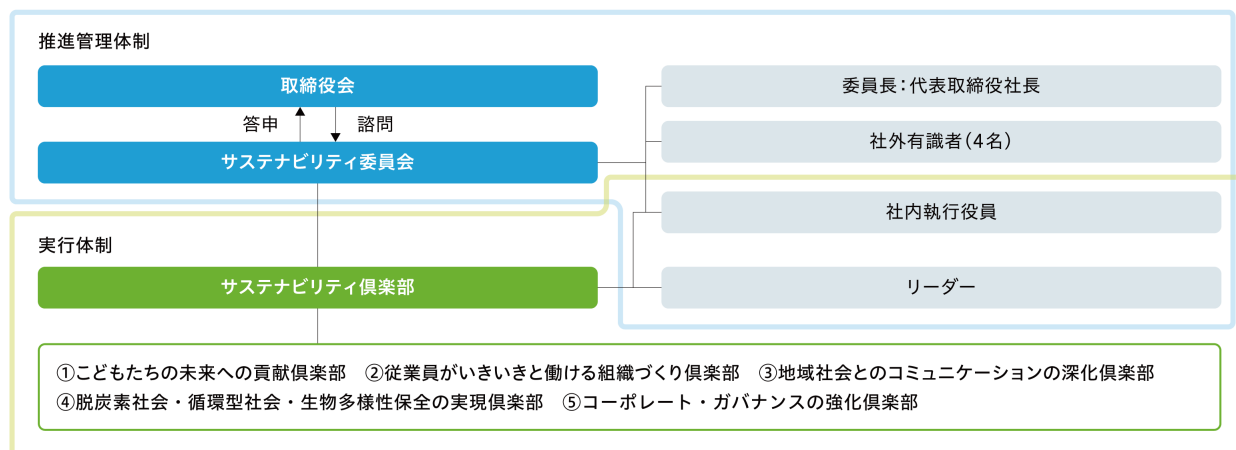
<https://www.fantasy.co.jp/company/sustainability/sustainabilitypolicy/>

① サステナビリティ全般に関するガバナンス

当社は、サステナビリティ経営の目標数値や取り組みの進捗を管理することを目的に、取締役会の諮問機関として「サステナビリティ委員会」を設置しております。委員会は、代表取締役社長を委員長として、委員の3分の1以上を社外の有識者から選任し、取締役会から諮問を受けた内容について協議、答申いたします。

「サステナビリティ委員会」の下部組織として、特定したマテリアリティごとに部署横断型チーム「サステナビリティ倶楽部」を設置し、具体的な取り組み内容を検討・実行いたします。各倶楽部は、次世代を担う人材がリーダーとして活動し、具体的な指標と目標を設定し取り組みを進めております。

サステナビリティ推進体制図



② サステナビリティ全般に関する戦略

当社が目指す社会価値及びマテリアリティ（重要課題）について、SDGsなどを参考に社会課題を洗い出し、自社としての重要度及びステークホルダーにとっての重要度という2軸で検討し、以下のマテリアリティを特定いたしました。サステナビリティ経営にあたっては、これらマテリアリティに沿った施策を立案し推進しております。

<イオンファンタジーのマテリアリティ>

- ・こどもたちの未来への貢献
- ・従業員がいいききと働ける組織づくり
- ・地域社会とのコミュニケーションの深化
- ・脱炭素社会、循環型社会、生物多様性保全の実現
- ・コーポレート・ガバナンスの強化

<マテリアリティの特定プロセス>

1	課題の抽出	マテリアリティの特定にあたり、SDGsやグローバルリスクレポートなどを参考に、将来のメガトレンドを踏まえつつ、社会課題を洗い出しました。そのうえで、事業活動におけるリスク及び機会の観点で課題の絞り込みを行い、自社にとっての重要な社会課題の抽出を行いました。
2	ステークホルダーにとっての重要性	ステークホルダーにとっての重要性において、参考指標には、グローバル・コンパクトの10原則、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)、DJSIやFTSEなどのESG評価項目などから整理しました。また、自社の事業活動において重要と考えるビジネスパートナーや競合他社などの情報も参考にしました。
3	企業にとっての重要性	各社会課題について、機会とリスクの両面から、経営層個々人が自社にとっての重要性を評価しました。その結果をもとに、経営層でディスカッションを行い、主要な6テーマに分類しました。
4	重要課題の決定	取締役会による承認を経て、自社で優先的に取り組むべき社会課題を「重要課題」として決定しました。決定後、重要課題の実行・進捗管理をするために体制を設置し、各課題ごとの目標(KPI)の設定と、取り組み内容の検討を行いました。

また、当社は、持続可能な社会と企業成長の両立を目指し、2022年9月、TCFDの提言に賛同を表明いたしました。気候変動問題が当社の事業活動に対して及ぼす影響など、リスクと機会の分析を進め、その結果を経営戦略や取り組みに反映していくとともに、さらなる開示情報の充実に努めてまいります。なお、気候変動に伴う主なリスクと機会については次のとおり分析しており、これらのリスクと機会に対応するための施策を推進しております。

<リスク>

- ・炭素税等温室効果ガス排出規制政策の影響を受け、仕入原価や資材等コストの増加
- ・エネルギー利用の規制等の影響を受け、店舗の営業に関する制限(営業時間等)を受けることによる減収
- ・異常気象の頻度と規模の拡大がもたらす店舗・従業員等への補填補修コストの増加
- ・異常気象の頻度と規模の拡大がもたらす店舗の休業・時短営業の発生による減収

<機会>

- ・環境を意識した遊戯機械・遊具の開発・品揃えが増えることによる収益機会の拡大
- ・「プレイグラウンド事業」の接客力等オペレーションの競争力強化による収益の拡大

<対応>

- ・省エネルギー対応の推進
- ・3Rの推進
- ・再生エネルギー調達拡大
- ・新たなビジネスモデルの展開

③ サステナビリティ全般に関するリスク管理

当社は、当社グループ全体のリスクマネジメント及びコンプライアンスの推進を目的として内部統制委員会を設置し、その下部組織としてリスク管理分科会、コンプライアンス分科会を設置しております。内部統制委員会の委員長は代表取締役社長、各分科会の委員長は、リスクマネジメント及びコンプライアンスを統括する管理部門責任者が務めております。同委員会は、人財リスクや情報セキュリティ、BCP等のサステナビリティ関連リスクを含む、国内外グループ各社における各種リスク評価の結果を集約し、グループの横断的なリスクへの対策立案と推進管理を行い、その結果を定期的に取り締役に報告し、必要な指示を受けております。

また、取締役会諮問機関として委員の3分の1以上を外有識者から構成する「サステナビリティ委員会」を設置しております。四半期毎に開催し、持続的成長に向けた長期的課題であるマテリアリティの進捗管理や計画の修正、最新動向の共有等を行い、その結果を定期的に取り締役に報告し、必要な指示を受けております。詳細は「第一部 第4 提出会社の状況 4. コーポレートガバナンスの状況等 (1) コーポレート・ガバナンスの概要」をご参照ください。

④ サステナビリティ全般に関する指標及び目標

以下のとおり、マテリアリティごとに指標及び目標を設定しております。

マテリアリティ(重要課題)

マテリアリティ	ありたい姿 (2050年)	中期目標 (2030年)	取り組み
S	子どもたちの未来への貢献	<p>子どもたちの“えがお”をひろげる新たな機会の創出 インクルーシブな遊び場の満足度75% 誰でもあそべる機会の社会的インパクト75% ※インクルーシブな社会実現に向けて、重要性の理解度比率</p>	<p>障がいをもったおこさまでも遊べる遊戯機械・遊具の拡大</p> <p>障がいをもったおこさまも参加できる企画の推進</p> <p>お客さまとともに、子どもの権利を守る活動を支援</p>
	従業員がいきいきと働ける組織づくり	<p>国内外女性課長職以上比率50% 障がい者雇用率5% 男性育児休暇取得率100%</p> <p>ファンタジーピープルいきいき度75% ※いきいき度＝サーベイ項目のうち、「働きがい」「働きやすさ」に関する項目の平均肯定回答率</p>	<p>ダイバーシティの推進 (多様な価値観を活かすための教育・お互いを知る場づくり)</p> <p>働き方の改革</p> <p>サーベイの実施と、改善に向けた取り組み</p>
	地域社会とのコミュニケーションの深化	<p>たのしさとふれあいの場の提供を通じて、“えがお”あふれる地域社会</p> <p>地域・社会貢献活動により“えがお”にした人数500万人 ※2022年度～2030年度の国内外のべ人数</p>	<p>社会福祉施設への訪問</p> <p>社会福祉施設の子どもたちのご招待会の実施</p> <p>地域の行政・団体・企業などと連携し、地域の方々に“えがお”にする取り組みの実施</p>
E	<p>脱炭素社会・循環型社会・生物多様性保全の実現</p> <p>【定量目標】 2040年に店舗で排出するCO₂等を総量で実質ゼロを目指します</p> <p>【ありたい姿】 あそびを通じて地球環境を大切に する事業・機会を創造し、地球の豊かさを未来の子どもたちと 育てる社会</p>	<p>①事業におけるエネルギー由来のCO₂排出量64%減(2018年比) ※単位は売上単位 一省エネ比率10% 一再エネ比率60%</p>	<p>Scope1・2の削減 ①省エネの実施 ②再エネ導入</p>
		<p>②店舗で使用するプラスチック総量30%削減* ※2019年度比主要6種(カプセル含む)</p>	<p>Scope3の削減 ①プラスチック使用量の削減 ②遊戯機械・景品の廃棄の削減</p>
		<p>③店舗で廃棄する遊戯機械・景品廃棄率10%未満</p>	<p>環境や生物多様性の重要性についてまなぶ機会の提供</p>
		<p>④環境保全や生物多様性の保全についてまなぶ子ども数500万人 ※2024年度～2030年度の国内外のべ人数</p>	<p>人間活動から放置された場所を復活させる取り組みの推進</p>
		<p>⑤人間と自然が共生し生物多様性を保全する場・機会づくり</p>	
G	コーポレート・ガバナンスの強化	<p>ステークホルダーと信頼を築き、ファンタジーピープルを守り、持続的成長できる会社</p>	<p>コーポレートガバナンスコードの実践体制の強化</p> <p>コンプライアンス研修の実施(国内・海外)</p> <p>海外子会社のガバナンスの強化</p> <p>人権デュー・ディリジェンスの実施</p>

※国内外表記以外は、国内事業のみの目標・取り組み

※一部開示内容の修正を行いました

(2) 人的資本に関する考え方及び取り組み

当社は持続的に成長していくための原動力は「人財」であり、人財育成は極めて重要であると認識しております。「日々の変化に自ら意思を持って対応し、周囲とともに成長しながらチームとして成果を出すことができる人財」を目指す姿とし、当社の「人財」であるファンタジーピープル（イオンファンタジーで働くすべての人々）の“えがお”はこどもとそのファミリーの“えがお”の源泉であると考え、従業員がいきいきと働ける組織づくりを進めてまいります。

従業員がいきいきと働ける環境づくりのために「すべてのファンタジーピープルが仕事もあそびも夢中になれる会社」を長期目標とし、「ダイバーシティの推進」、「えがおを支える専門人財の育成」、「意欲ある人が自ら成長していける仕組みづくり」、「経営者育成」を行ってまいります。

① 人的資本に関する戦略

<多様性の確保について>

当社は、成長の原動力は「人財」であると認識しております。この認識のもと、特に海外進出しているグローバル企業として、持続的成長のためには多様な価値観を活かす「ダイバーシティ&インクルージョン」の推進が重要な戦略であると捉え、積極的に取り組んでおります。

まず、当社では性別・国籍・年齢・キャリアを問わず、優秀な人財の採用・起用を積極的に行っております。現在、執行役員1名、海外子会社社長1名は女性で、内1名は外国籍でございます。また、事業の多角化に必要な専門人財（IT・クリエイター・コンプライアンス・経理など）の確保も強化しており、2023年度は計5名を中途採用のほかにも、保育専門人財32名を正社員化いたしました。

一方、ダイバーシティ担当を設置し、女性管理職候補育成のための研修派遣以外にも、両立支援の推進施策として2023年度に育児休業を支援する制度導入など、福利厚生を拡充しており、2022年の千葉県男女共同参画推進事業所表彰「千葉県知事賞」の受賞につづき、2023年に「プラチナくるみんマーク」を取得し、2024年には今までの多様な人財への取組みと成果が認められ、第14回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞「経済産業大臣賞」を受賞しております。

このように女性、外国籍、様々なキャリアを持つ中途採用者など、多様な人財の確保はもちろん、全ての人がいきいきと働きやすい環境づくりに向けて引き続き取り組んでまいります。

<育成について>

当社は2019年度より教育体系の改革に取り組んでおり、「各職位に必要な知識とスキルを習得し、その上で意欲ある人が自ら成長していける仕組みを整え推進することで、会社の成長に寄与する人財を育成する」ことを当社の教育制度のあるべき姿とし、プログラムの拡充を図ってまいりました。会社主催の研修に加え、自己啓発に意欲をもつ従業員が職位や雇用形態に関係なく、自ら学べる制度（イオンファンタジー自己啓発プログラム）を構築しております。受講費用を全額会社負担とし、職務に必要なスキルの習得に向けて、多くの従業員が自ら受講に応募し、学んでおります。また、2021年に導入した新人事制度では、パートナー社員のストアマネジャーを正社員化することで、人財確保をするとともに、お客さまにより良いサービスをご提供できるよう現場力の向上に取り組んでおります。

また、マテリアリティの一つである、従業員がいきいきと働ける組織づくりに向けて2022年度以降は当社ならではのモラルサーベイ（エンゲージメント調査）を設定および実施し、ファンタジーピープル一人ひとりのいきいき度向上と、働きがいのある職場の実現にむけて取り組んでおります。

② 人的資本に関する指標と実績

当社の各取り組み内容の指標と実績は以下のとおりです。

当社の指標		2021年度	2022年度	2023年度
管理職に占める女性従業員の割合		53.1%	51.6%	53.5%
男性育児休業取得率		35.7%	100.0%	100.0%
男女間の賃金格差	社員	75.7%	74.3%	71.5%
	パートタイマー	103.3%	104.9%	104.4%
	合計	79.3%	77.5%	77.5%
障がい者雇用率		2.9%	3.3%	3.4%

3 【事業等のリスク】

当社グループの事業展開、経営成績その他に関してリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項、並びに必ずしも事業上のリスクに該当しない事項についても、投資者の投資判断上重要であると考えられる事項については、投資者に対する情報開示の観点から積極的に開示しております。

なお、当社グループは、これらのリスクの可能性を認識した上で、前述の「1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載の施策などにより、発生の回避、発生した場合の対応に努める所存であります。

記載事項のうち将来に関する事項は、当連結会計年度末において判断したものであります。

(1) 業界における持続的な低迷のリスク

当社グループは、日本、中国、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア及びベトナムにおいてショッピングセンター内遊戯施設の設置運営を事業とし、主に3才から7才の子どもたちを対象に展開しており、その収益は国内市場に大きく依存しております。日本のアミューズメント業界は2015年より市場規模は改善傾向であるものの、余暇市場の多様化や家庭用ゲームの普及、スマートフォンを使用したゲームアプリの人気などによりピーク時より約3割減少しております。さらに直面している少子化問題により、当社グループ施設を利用する子どもたちが減少する可能性があります。これらにより、当社グループの業績が低迷する可能性があります。

(2) 競争の激化に関するリスク

当社グループは、ショッピングセンター内に出店し、遊戯施設を運営しております。同じ出店形態を主体とする企業と競合しており、さらに最近では、単独の出店形態を主体とする企業もショッピングセンター内への出店を積極的に進めております。これら競合する企業は、当社グループの施設より広い面積で、子どもたちを中心とした家族も対象として、同一又は近隣ショッピングセンターへの出店を加速させております。このような競争の激化は、当社グループの出店戦略及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 感染症発生及び拡大のリスク

当社グループは、ショッピングセンター内に出店し主に3才から7才の子どもを対象とした遊戯施設を運営しております。感染症が発生した場合、子どもたちが多く集まる施設への来店が減少し、当社グループ施設への来店も減少することが考えられます。さらに感染が拡大した場合、当社グループ施設が臨時休業せざるを得ない状況となることが考えられます。2020年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大により、当社グループ施設は、国内、中国及びアセアンにおいて、臨時休業することになり、当社グループの業績に影響を及ぼしました。将来、このような感染症の流行が長期的に続く場合は、当社グループの業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、当該リスクの低減を図るため、専門家の科学的根拠に基づく助言と最新の知見による「イオン新型コロナウイルス防疫プロトコル」に準拠し、お客さま及び従業員への感染防止対策に努めております。

(4) イオングループ内出店の状況

当社グループはイオングループの一員であり、グループ内外のショッピングセンターにおける遊戯施設の運営を行っております。2024年2月29日現在における直営店1,156店舗のうち、イオングループのショッピングセンター内店舗数は715店舗となっております。したがって、今後、イオングループの属する業界を取り巻く環境変化や業界再編等で、集客力が変動した場合には、当社グループの業績も影響を受ける可能性があります。

当社グループでは、当該リスクの低減を図るため、ターミナル型商業集積、ホームセンター複合への業態開発を推進し、イオングループ外への出店を加速してまいります。

(5) 消費税率引き上げに伴うリスク

消費税率が引き上げられると個人消費が一時的に落ち込む可能性があります。とりわけレジャーや娯楽への支出は最優先で抑えられ、さらに税率が引き上げられた場合は、長期的に抑制される可能性があります。これにより、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 海外事業の展開に関するリスク

当社グループは、中国、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア及びベトナムにおいて事業を展開しております。海外における事業活動は、経済成長の動向や為替相場の変動に加えて、投資、貿易、外貨、税及び営業許可に関する法的規制の変更、生活習慣の相違、労使関係及びその他の政治的・社会的要因により、影響を受ける可能性があります。また当社グループの施設に類似したプレイグラウンド施設が増加しており、今後、さらに競争が激化することにより、当社グループの業績に及ぼす影響が大きくなる可能性があります。

当社グループでは、当該リスクの低減を図るため、海外展開にあたっては、採算性、市場拡大余地、為替変動リスク、税及び営業許可に関する法的規制等を慎重に検討し総合的に判断することとしております。

(7) アミューズメント施設運営に関する法的規制のリスク

国内のアミューズメント施設運営業務は、「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律」(以下、「風営適正化法」という)の第2条第一項第5号に基づき、都道府県公安委員会の営業許可を受けることが必要な場合があります。その内容は、施設開設及び運営に関する許認可申請制度、営業時間の制限、入場者の年齢による制限、遊技料金等の規制、施設の構造・内装・照明・騒音等に関する規制事項等であります。

当社グループは2024年2月29日現在、国内直営703店舗のうち116店舗で「風営適正化法」の許認可に基づき営業を行っております。許認可対象外の店舗は、「風営適正化法」第2条第一項第5号の政令で定められた対象外施設に該当する「大規模小売店舗内の区画された施設」であり、i)主に小売業に集来する顧客が利用するものであること、ii)営業時間が小売部分と同一であること、iii)当該施設の外部から当該施設の内部を容易に見通すことが出来ること等により、関係諸官庁より許認可対象外施設であると判断されたものであります。今後も、当社グループは「風営適正化法」の規制を遵守し、施設の設置及び運営をしてまいります。許認可店舗の営業活動は一部制限されており、対象外店舗であっても法的規制の変更により、許認可対象店舗となる可能性があります。

さらに、許認可対象店舗が増えていく場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 人材の確保と育成に関するリスク

当社グループが目指す「安全・安心な店作り」を行うために、子どもたちへのフレンドリーな接客や楽しいイベントの提供及び迅速正確なオペレーションができる人材を採用・育成することが重要な課題となっております。最近において、すでに人材確保が困難な雇用環境となっており、必要な人材を確保できない場合、店舗の運営に支障をきたす可能性があり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 個人情報の取り扱いに関するリスク

当社グループは、一部会員制度の情報など業務上必要な個人情報を保有しております。これら個人情報に関しては、社内規程を制定し必要な教育を実施するなど重要性を全員に周知し、その取り扱いには十分留意しておりますが、当該情報が外部に流出した場合には、当社グループへの信頼が低下することなどにより、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) その他の法的規制等に関するリスク

当社グループの事業内容に関連して、不当景品類及び不当表示防止法、食品衛生法等の法令による規制を受ける場合があります。これらの法的規制が変更された場合、店舗の営業活動に影響を及ぼし、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 経営成績

<連結業績>

当社は2022年4月に、「こどもたちの夢を育み、“えがお”あふれる世界をつくる。」というパーパスを制定しました。同時に、サステナビリティ方針も策定し、持続可能な社会への貢献と企業価値向上の実現に向け、事業活動を推進しております。

当連結会計年度（2023年3月1日～2024年2月29日）における当社及び連結子会社の連結業績は、売上高817億58百万円（前期比12.5%増）、営業利益35億85百万円（前期比322.2%増）、経常利益44億88百万円（前期比240.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は13億14百万円（前期親会社株主に帰属する当期純損失33億76百万円）となりました。為替レートが円安で進行した結果、営業外収益に為替差益11億73百万円を計上し、特別損失として、主に中国事業の不採算店舗及び閉店に伴う減損損失10億78百万円を計上しました。

国内事業は、新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行後、四半期ごとに回復が顕著となり当第4四半期連結会計期間は売上高、営業利益ともに過去最高となりました。戦略的小型店の出店による売上の拡大もあり、当期の売上高は644億75百万円と過去最高となりました。

中国事業は、中国国内景気の不透明感や、感染症流行によるこどもの来店客数が減少したことから売上の回復が遅れており、当期の売上高は65億27百万円となりました。

アセアン事業は、当期の売上高110億6百万円、営業利益13億58百万円と増収増益となり、2期連続で過去最高を更新しました。

店舗数については、当期の新規出店191店舗、閉店68店舗となり、2024年2月末時点で国内703店舗、海外464店舗、合計1,167店舗（直営店1,156店舗、F C 11店舗）となりました。

<セグメント別業績>

(国内事業)

国内事業は、プライズ部門・カプセルトイ部門が好調を継続し、メダル部門・時間制遊具部門は昨年からの改善が顕著となりました。戦略的小型店の出店による売上拡大もあり、当期の売上高は過去最高となりました。

当期は、カプセルトイ専門店「TOYS SPOT PALO」、プライズ専門店「PRIZE SPOT PALO」合計で106店舗の戦略的小型店を出店しました。駅ビルやファッションビルなど新たな立地へも出店を拡大しております。

順調に回復が進むメダル部門においては、3年ぶりに新規機械投資を再開し人気機種である「桃太郎電鉄」「ホリアテール」を導入しました。同時に「1万円でメダル1万枚」イベントなど販売促進を行なった結果、メダル会員的大幅増に繋がり売上高前期比は117.2%となりました。プライズ部門では、戦略的に強化をしているお子さま向けのキッズプライズが引き続き好調に推移し、プライズ部門全体を牽引し、当部門の売上高前期比は107.9%となりました。

当期はモーリーファンタジー5店舗、カプセルトイ専門店76店舗、プライズ専門店30店舗、ちきゅうのにわ2店舗、ミューの森1店舗、その他3店舗を出店する一方、不採算店舗等23店舗を閉店し、2024年2月末では703店舗となりました。

以上の結果、国内事業における当期の業績は、売上高644億75百万円(前期比9.6%増)、営業利益45億70百万円(前期比90.3%増)となりました。

(中国事業)

中国事業は、経済活動の不透明感の継続と、9月以降の感染症流行による影響により、こどもの来店客数が減少し売上の回復が遅れておりますが、当初計画を上回る不採算店舗の閉店や経費削減を実施した結果、営業利益は前期から4億39百万円改善いたしました。

当期は、ROIが高い戦略的小型店を中心に22店舗を出店する一方、不採算店舗等30店舗を閉店し、2024年2月末の店舗数はF C 6店舗を含め187店舗となりました。

以上の結果、中国事業における当期の業績は、売上高65億27百万円(前期比34.4%増)、営業損失23億43百万円(前期営業損失27億82百万円)となりました。

(アセアン事業)

アセアン事業は、業界シェア1位であるマレーシア・フィリピンが全体の業績を牽引しました。当期の売上高既存比は110.9%となり、連結会計年度としては、売上高、営業利益とも過去最高となりました。当期の売上高既存比はタイ125.4%、マレーシア同123.4%、フィリピン同104.3%、インドネシア同100.9%となり、4ヶ国が昨年実績を上回っております。

当期は、52店舗を新規出店する一方、不採算店舗等15店舗を閉店し、2024年2月末の店舗数はF C 5店舗を含め277店舗となりました。

以上の結果、アセアン事業における当期の業績は、売上高110億6百万円(前期比21.8%増)、営業利益13億58百万円(前期比11.3%増)(※)となりました。

(※) アセアン事業におきましては当期に前期には発生していなかった社内ブランドロイヤルティ(約2億40百万円)が発生しております。フィリピンでは前期の営業利益において、コロナ影響による家賃減免効果(約1億円)があり、営業利益は実質39.1%増となります。

(仕入及び販売の状況)

当社グループの主な事業は、ショッピングセンター内遊戯施設の設置運営であり、「仕入及び販売の状況」については、セグメントごとに品目別又は部門別に記載しております。

① 仕入実績

セグメントごとの品目別仕入実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)		当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	
	仕入高(百万円)	構成比(%)	仕入高(百万円)	構成比(%)
(国内事業)				
商品	7,206	41.2	7,562	39.8
貯蔵品	8,529	48.8	9,246	48.7
遊戯施設関係	15,736	90.0	16,808	88.6
その他	0	0.0	0	0.0
小計	15,736	90.0	16,808	88.6
(中国事業)				
商品	203	1.2	347	1.8
貯蔵品	533	3.1	769	4.1
遊戯施設関係	736	4.2	1,117	5.9
小計	736	4.2	1,117	5.9
(アセアン事業)				
商品	284	1.6	339	1.8
貯蔵品	728	4.2	714	3.8
遊戯施設関係	1,012	5.8	1,054	5.6
小計	1,012	5.8	1,054	5.6
合計	17,485	100.0	18,980	100.0

- (注) 1. 金額は、仕入価格で表示しております。
2. 商品は、カード、菓子、玩具、飲食物等であります。
3. 貯蔵品は、遊戯機械景品のぬいぐるみ、玩具、菓子、メダル等であります。
4. その他は、販売用遊戯機械、備品、景品等であります。

② 販売実績

i) 部門別売上高

セグメントごとの部門別売上高は、次のとおりであります。

セグメントの名称		前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)		当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	
		売上高(百万円)	構成比(%)	売上高(百万円)	構成比(%)
(国内事業)					
	遊戯機械売上高	48,341	66.5	52,967	64.8
	商品売上高	9,948	13.7	10,427	12.8
	委託売上高	89	0.1	105	0.1
	その他	345	0.5	598	0.7
遊戯施設関係		58,725	80.8	64,098	78.4
その他		72	0.1	126	0.2
小計		58,797	80.9	64,225	78.6
(中国事業)					
	遊戯機械売上高	4,297	5.9	5,463	6.7
	商品売上高	560	0.8	1,063	1.3
遊戯施設関係		4,858	6.7	6,527	8.0
小計		4,858	6.7	6,527	8.0
(アセアン事業)					
	遊戯機械売上高	8,043	11.1	9,798	12.0
	商品売上高	947	1.3	1,185	1.4
	委託売上高	43	0.1	23	0.0
遊戯施設関係		9,034	12.4	11,006	13.5
小計		9,034	12.4	11,006	13.5
合計		72,690	100.0	81,758	100.0

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2. 遊戯機械売上高は、プライズゲーム機、メダルゲーム機、時間制遊具等の遊戯機械による収入であります。
 3. 商品売上高は、カード、玩具、飲食物等の販売による収入であります。
 4. 委託売上高は、飲料等自動販売機の運営委託に係る手数料収入等であります。
 5. 遊戯施設関係のその他は、温浴施設の入場料収入等であります。
 6. その他は、遊戯機械・備品、景品等の販売収入、ロイヤリティー収入等であります。

ii) 地域別売上高

販売実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

国内事業(地域)	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)			当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)		
	売上高(百万円)	構成比 (%)	期末店舗数 (店)	売上高(百万円)	構成比 (%)	期末店舗数 (店)
北海道東北	9,986	17.0	113	11,043	17.2	134
関東	15,186	25.8	157	16,335	25.4	175
中部	10,000	17.0	97	10,991	17.1	118
近畿	11,457	19.5	114	12,279	19.1	129
中国四国	4,522	7.7	54	4,927	7.7	60
九州沖縄	7,571	12.9	74	8,520	13.3	87
店舗計	58,725	99.9	609	64,098	99.8	703
本社	72	0.1	—	126	0.2	—
国内事業計	58,797	100.0	609	64,225	100.0	703

中国事業(地域)	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)			当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)		
	売上高(百万円)	構成比 (%)	期末店舗数 (店)	売上高(百万円)	構成比 (%)	期末店舗数 (店)
中国	4,858	100.0	189	6,527	100.0	181
中国事業計	4,858	100.0	189	6,527	100.0	181

アセアン事業(地域)	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)			当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)		
	売上高(百万円)	構成比 (%)	期末店舗数 (店)	売上高(百万円)	構成比 (%)	期末店舗数 (店)
マレーシア	3,590	39.7	108	4,466	40.6	118
タイ	729	8.1	27	991	9.0	31
フィリピン	2,361	26.1	51	2,858	26.0	58
インドネシア	1,457	16.1	33	1,706	15.5	35
ベトナム	895	9.9	18	983	8.9	30
アセアン事業計	9,034	100.0	237	11,006	100.0	272

iii) 単位当たり売上高

セグメントごとの単位当たり売上高を売場面積別及び従業員別に示すと次のとおりであります。

国内事業		前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
遊戯施設売上高(百万円)		58,725	64,098
1㎡当たり売上高	売場面積(平均)(㎡)	328,018	340,795
	1㎡当たり売上高(千円)	179	188
1人当たり売上高	従業員数(平均)(人)	3,829	3,908
	1人当たり売上高(千円)	15,339	16,401

- (注) 1. 売場面積(平均)は、営業店舗の期中平均値であります。
2. 従業員数(平均)は、パートナー社員(パートタイマー)及び受入出向者を含めた期中平均値であります。なお、パートナー社員の人数は1日8時間換算で計算しております。

中国事業		前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
遊戯施設売上高(百万円)		4,858	6,527
1㎡当たり売上高	売場面積(平均)(㎡)	158,098	146,995
	1㎡当たり売上高(千円)	30	44
1人当たり売上高	従業員数(平均)(人)	1,460	1,231
	1人当たり売上高(千円)	3,328	5,302

- (注) 1. 売場面積(平均)は、営業店舗の期中平均値であります。
2. 従業員数(平均)は、受入出向者を含めた期中平均値であります。

アセアン事業		前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
遊戯施設売上高(百万円)		9,034	11,006
1㎡当たり売上高	売場面積(平均)(㎡)	140,418	142,334
	1㎡当たり売上高(千円)	64	77
1人当たり売上高	従業員数(平均)(人)	2,018	2,399
	1人当たり売上高(千円)	4,477	4,587

- (注) 1. 売場面積(平均)は、営業店舗の期中平均値であります。
2. 従業員数(平均)は、受入出向者を含めた期中平均値であります。

(2) 財政状態

(流動資産)

当連結会計年度末における流動資産の残高は、129億24百万円となり、前連結会計年度末に比べ20億81百万円増加いたしました。主な内訳は、現金及び預金の増加(14億34百万円)、貯蔵品の増加(2億90百万円)、売上預け金の増加(2億25百万円)であります。

(固定資産)

当連結会計年度末における固定資産の残高は、393億78百万円となり、前連結会計年度末に比べ33億3百万円増加いたしました。主な内訳は、新店及び店舗活性化に伴う遊戯機械の増加(14億88百万円)、使用権資産の増加(14億17百万円)及び建物の増加(9億68百万円)であります。

この結果、総資産は523億3百万円となり、前連結会計年度末に比べ53億85百万円増加いたしました。

(流動負債)

当連結会計年度末における流動負債の残高は、376億52百万円となり、前連結会計年度末に比べ52億98百万円増加いたしました。主な内訳は、短期借入金の増加(46億58百万円)、買掛金の増加(4億29百万円)であります。

(固定負債)

当連結会計年度末における固定負債の残高は61億9百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億15百万円減少いたしました。主な内訳は、連結子会社における長期借入金の減少(7億57百万円)、長期割賦未払金の減少(5億73百万円)、連結子会社におけるリース債務の増加(9億74百万円)であります。

この結果、負債合計は437億62百万円となり、前連結会計年度末に比べ49億83百万円増加いたしました。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は、85億41百万円となり前連結会計年度末に比べ4億2百万円増加いたしました。主な内訳は、親会社株主に帰属する当期純利益の計上(13億14百万円)、為替の変動に伴う為替換算調整勘定の減少(8億66百万円)、剰余金の配当による減少(1億97百万円)であります。

(3) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末と比較して14億32百万円増加し74億91百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は120億56百万円となりました。その主な内訳は、減価償却費100億43百万円の計上による資金の増加と、税金等調整前当期純利益32億89百万円の計上による資金の増加であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は107億25百万円となりました。主に新規出店や既存店活性化投資に伴う有形固定資産95億90百万円の取得によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は97百万円となりました。主に短期借入金の純増額45億59百万円、リース債務25億54百万円の返済及び長期借入金13億37百万円の返済によるものです。

なお、キャッシュ・フロー関連指標の推移は下記のとおりであります。

	2023年2月期	2024年2月期
自己資本比率	16.9%	15.9%
時価ベースの自己資本比率	116.1%	87.6%
キャッシュ・フロー対有利子負債比率	315.8%	270.9%
インタレスト・カバレッジ・レシオ	14.7倍	20.4倍

(注) 1. 自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

2. キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを利用して計算しております。有利子負債は、連結貸借対照表上に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いは、キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(4) 資本の財源及び資金の流動性

(資金需要)

当社グループの資金需要の主なものは、商品及び貯蔵品の仕入、店舗運営に係る人件費及び地代家賃等の営業費用であります。また、設備投資に係る資金需要の主なものは、新店及び店舗活性化に伴う遊戯機械の取得等であります。

(財務政策)

当社グループの事業活動に必要な資金については、営業キャッシュ・フローによることを基本とし、主として金融機関からの借入により資金調達しております。

(5) 重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。連結財務諸表の作成にあたり、連結貸借対照表上の資産、負債の計上額及び連結損益計算書上の収益、費用の計上額に影響を与える会計上の見積りを行う必要があります。

当該見積りは、過去の実績や将来における発生の可能性等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。当社グループの連結財務諸表で採用する会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4. 会計方針に関する事項」に記載しております。

なお、特に重要な会計上の見積りについては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)」に記載しております。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資総額は12,687百万円となりました。その内訳は国内事業の新規出店117店舗と既存店の改装及び遊戯機械の入替投資等が8,147百万円、中国事業の新規出店22店舗と改装及び遊戯機械の入替投資等が773百万円、アセアン事業の新規出店52店舗と改装及び遊戯機械の入替投資等が3,766百万円となりました。この資金は自己資金及び必要に応じて銀行借入で賅っております。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2024年2月29日現在における主要な設備は、次のとおりであります。

地域別	セグメントの名称	設備の内容	店舗数(店)	店舗面積(m ²)	帳簿価額					従業員数(名)
					建物(百万円)	遊戯機械(百万円)	工具、器具及び備品(百万円)	敷金及び差入保証金(百万円)	計(百万円)	
北海道東北	国内事業	遊戯施設	134	68,879	222	2,487	134	580	3,425	119 [524]
関東	国内事業	遊戯施設	175	80,203	755	3,503	284	813	5,357	161 [751]
中部	国内事業	遊戯施設	118	61,095	540	2,459	237	529	3,767	101 [567]
近畿	国内事業	遊戯施設	129	63,164	257	2,610	145	488	3,501	138 [573]
中国四国	国内事業	遊戯施設	60	29,098	124	1,011	58	189	1,383	52 [227]
九州沖縄	国内事業	遊戯施設	87	42,579	189	1,958	101	788	3,037	87 [398]
店舗計			703	345,017	2,090	14,030	962	3,389	20,472	658 [3,040]
本社	国内事業	事務所	—	1,707	119	619	97	101	938	204 [62]
国内事業計			703	346,724	2,209	14,650	1,059	3,491	21,411	862 [3,102]

- (注) 1. パートナー社員(パートタイマー)の人数は、1日8時間で換算した年間の平均人員を [] 内に外数で記載しております。
2. 当社の主な事業は、ショッピングセンター内遊戯施設の設置運営であります。

(2) 在外子会社

2024年2月29日現在における主要な設備は、次のとおりであります。

会社名	事業所名	セグメントの名称	設備の内容	店舗数(店)	店舗面積(m ²)	帳簿価額						従業員数(名)
						建物(百万円)	遊戯機械(百万円)	使用権資産(百万円)	工具、器具及び備品(百万円)	敷金及び差入保証金(百万円)	計(百万円)	
永旺幻想(中国) 児童遊楽有限公司	中国	中国事業	遊戯施設	181	139,099	1,054	794	1,634	188	689	4,362	1,177
中国事業計				181	139,099	1,054	794	1,634	188	689	4,362	1,177
AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD.	マレーシア	アセアン事業	遊戯施設	118	56,070	486	378	1,770	185	184	3,005	670
AEON Fantasy (Thailand) Co., Ltd.	タイ	アセアン事業	遊戯施設	31	16,538	466	348	114	96	116	1,142	264
AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC.	フィリピン	アセアン事業	遊戯施設	58	33,890	549	461	685	40	260	1,997	770
PT. AEON FANTASY INDONESIA	インドネシア	アセアン事業	遊戯施設	35	29,976	768	618	125	47	79	1,640	483
AEON FANTASY VIETNAM CO., LTD.	ベトナム	アセアン事業	遊戯施設	30	13,764	336	438	606	35	115	1,533	313
アセアン事業計				272	150,238	2,608	2,246	3,301	406	757	9,319	2,500

3 【設備の新設、除却等の計画】

2024年2月29日現在における重要な設備の新設の計画は次のとおりであります。

(国内事業)

事業所名	所在地	区分	予算金額(千円)	既支払額(千円)	今後の所要資金(千円)	着工年月	完成予定年月
ちきゅうのいわ 広島府中	広島県府中町	新設	248,970	—	248,970	2024年4月	2024年4月
チャンネルシティ博多	福岡県福岡市	新設	82,052	13,706	68,346	2024年4月	2024年4月
日根野	大阪府泉佐野市	新設	65,204	—	65,204	2024年5月	2024年6月
ちきゅうのいわ 沖縄ライカム	沖縄県北中城村	新設	237,348	10,000	227,348	2024年2月	2024年3月
PSP博多マルイ	福岡県福岡市	新設	64,665	7,441	57,224	2024年3月	2024年3月
クレーン横丁 渋谷A2ビル	東京都渋谷区	新設	252,103	—	252,103	2024年5月	2024年5月
クレーン横丁 八王子センチュリーステーションビル	東京都八王子市	新設	136,400	—	136,400	2024年7月	2024年7月
PSP片町きらら	石川県金沢市	新設	38,773	—	38,773	2024年4月	2024年4月
楽々園	広島県広島市	新設	201,709	—	201,709	2024年11月	2024年12月
クレーン横丁道頓堀	大阪府大阪市	新設	400,828	—	400,828	2024年7月	2024年7月
カプセル横丁下妻	茨城県下妻市	新設	16,727	—	16,727	2024年4月	2024年4月
カプセル横丁 浦和美園	埼玉県さいたま市	新設	17,883	—	17,883	2024年4月	2024年4月
合計			1,762,663	31,147	1,731,515		

(アセアン事業)

会社名	所在地	区分	予算金額 (千円)	既支払額 (千円)	今後の所要 資金(千円)	着工年月	完成予定 年月
AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD.	シャーアラム市	新設	3,987	—	3,987	2024年2月	2023年3月
AEON Fantasy (THAILAND) CO., LTD.	ムアンラヨン郡	新設	42,468	15,850	26,618	2023年10月	2024年3月
AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC.	カローカン市	新設	74,383	37,191	37,191	2024年1月	2024年5月
AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC.	マカティ市	新設	37,477	18,738	18,738	2024年4月	2024年5月
AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC.	ラスピニャス市	新設	68,787	34,393	34,393	2024年4月	2024年6月
AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC.	パガディアン市	新設	43,349	21,674	21,674	2024年5月	2024年7月
PT. AEON FANTASY INDONESIA	ブカシ市	新設	57,600	—	57,600	2024年2月	2024年3月
PT. AEON FANTASY INDONESIA	ブカシ市	新設	67,200	—	67,200	2024年2月	2024年3月
PT. AEON FANTASY INDONESIA	スラバヤ市	新設	43,200	—	43,200	2024年2月	2024年3月
PT. AEON FANTASY INDONESIA	ボゴール市	新設	148,800	28,800	120,000	2024年2月	2024年4月
AEON FANTASY VIETNAM CO., LTD.	ホーチミン市	新設	72,083	32,452	39,631	2024年1月	2024年3月
AEON FANTASY VIETNAM CO., LTD.	ホーチミン市	新設	104,444	6,758	97,685	2024年5月	2024年9月
合計			763,781	195,859	567,921		

(注) 1. 設備予算金額の内容は次のとおりであります。

新規出店に伴う建物、遊戯機械、工具、器具及び備品、敷金及び差入保証金、長期前払費用等であります。

2. 今後の所要資金2,299,437千円は、自己資金及び借入金等により充当する予定であります。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

② 【発行済株式】

種類	当事業年度末現在 発行数(株) (2024年2月29日現在)	提出日現在 発行数(株) (2024年5月22日現在)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	19,771,725	19,773,025	株式会社東京証券取引所 (プライム市場)	単元株式数 100株
計	19,771,725	19,773,025	—	—

(注) 提出日現在発行数には、2024年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

第10回新株予約権等

2016年5月23日開催の取締役会の決議及び2017年4月12日開催の取締役会の決議により発行した新株予約権は次のとおりです。

2016年5月23日取締役会決議及び2017年4月12日取締役会決議 (付与対象者の区分及び人数：当社取締役7名)		
	事業年度末現在 (2024年2月29日)	提出日の前月末現在 (2024年4月30日)
新株予約権の数(個)	14	14
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数 (株)	1,400 (注) 1	1,400 (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	2017年6月10日～2032年6月9日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 2,797 資本組入額 1,399(注) 2	同左
新株予約権の行使の条件	①新株予約権を割り当てられた者は、権利行使時においても当社の取締役又は監査役の地位にあることを要する。ただし、当社の取締役及び監査役を退任した場合であっても、退任日から5年以内に限って権利行使ができるものとする。 ②新株予約権については、その数の全数につき一括して行使することとし、これを分割して行使することはできないものとする。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡し、又はこれを担保に供することは原則としてできない。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—	—

(注) 1. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。

ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後株式数＝調整前株式数×分割（又は併合）の比率

当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行い新株予約権が承認される場合、又は当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、その他これらの場合に準じ株式数の調整を必要とする場合、当社は必要と認める株式数の調整を行う。

2. 新株予約権の行使による株式の発行については、自己株式を充当する場合には、資本組入は行わないものとする。

第11回新株予約権等

2017年5月19日開催の取締役会の決議及び2018年4月11日開催の取締役会の決議により発行した新株予約権は次のとおりです。

2017年5月19日取締役会決議及び2018年4月11日取締役会決議 (付与対象者の区分及び人数：当社取締役8名)		
	事業年度末現在 (2024年2月29日)	提出日の前月末現在 (2024年4月30日)
新株予約権の数(個)	20	14
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	2,000 (注) 1	1,400 (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	2018年6月10日～2033年6月9日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 6,050 資本組入額 3,025(注) 2	同左
新株予約権の行使の条件	①新株予約権を割り当てられた者は、権利行使時においても当社の取締役又は監査役の地位にあることを要する。ただし、当社の取締役及び監査役を退任した場合であっても、退任日から5年以内に限って権利行使ができるものとする。 ②新株予約権については、その数の全数につき一括して行使することとし、これを分割して行使することはできないものとする。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡し、又はこれを担保に供することは原則としてできない。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—	—

(注) 1. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。

ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割 (又は併合) の比率

当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行い新株予約権が承認される場合、又は当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、その他これらの場合に準じ株式数の調整を必要とする場合、当社は必要と認める株式数の調整を行う。

2. 新株予約権の行使による株式の発行については、自己株式を充当する場合には、資本組入は行わないものとする。

第12回新株予約権等

2018年5月15日開催の取締役会の決議及び2019年4月10日開催の取締役会の決議により発行した新株予約権は次のとおりです。

2018年5月15日取締役会決議及び2019年4月10日取締役会決議 (付与対象者の区分及び人数：当社取締役7名)		
	事業年度末現在 (2024年2月29日)	提出日の前月末現在 (2024年4月30日)
新株予約権の数(個)	24	21
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	2,400 (注) 1	2,100 (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	2019年6月10日～2034年6月9日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 2,103 資本組入額 1,051 (注) 2	同左
新株予約権の行使の条件	①新株予約権を割り当てられた者は、権利行使時においても当社の取締役又は監査役の地位にあることを要する。ただし、当社の取締役及び監査役を退任した場合であっても、退任日から5年以内に限って権利行使ができるものとする。 ②新株予約権については、その数の全数につき一括して行使することとし、これを分割して行使することはできないものとする。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡し、又はこれを担保に供することは原則としてできない。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—	—

(注) 1. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。

ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割 (又は併合) の比率

当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行い新株予約権が承認される場合、又は当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、その他これらの場合に準じ株式数の調整を必要とする場合、当社は必要と認める株式数の調整を行う。

2. 新株予約権の行使による株式の発行については、自己株式を充当する場合には、資本組入は行わないものとする。

第13回新株予約権等

2019年5月21日開催の取締役会の決議及び2020年4月10日開催の取締役会の決議により発行した新株予約権は次のとおりです。

2019年5月21日取締役会決議及び2020年4月10日取締役会決議 (付与対象者の区分及び人数：当社取締役8名)		
	事業年度末現在 (2024年2月29日)	提出日の前月末現在 (2024年4月30日)
新株予約権の数(個)	32	28
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	3,200 (注) 1	2,800 (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	2020年6月10日～2035年6月9日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,637 資本組入額 819 (注) 2	同左
新株予約権の行使の条件	①新株予約権を割り当てられた者は、権利行使時においても当社の取締役又は監査役の地位にあることを要する。ただし、当社の取締役及び監査役を退任した場合であっても、退任日から5年以内に限って権利行使ができるものとする。 ②新株予約権については、その数の全数につき一括して行使することとし、これを分割して行使することはできないものとする。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡し、又はこれを担保に供することは原則としてできない。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—	—

(注) 1. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。

ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割 (又は併合) の比率

当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行い新株予約権が承認される場合、又は当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、その他これらの場合に準じ株式数の調整を必要とする場合、当社は必要と認める株式数の調整を行う。

2. 新株予約権の行使による株式の発行については、自己株式を充当する場合には、資本組入は行わないものとする。

第16回新株予約権等

2023年4月12日開催の取締役会の決議により発行した新株予約権は次のとおりです。

2023年4月12日取締役会決議 (付与対象者の区分及び人数：当社取締役5名)		
	事業年度末現在 (2024年2月29日)	提出日の前月末現在 (2024年4月30日)
新株予約権の数(個)	37	37
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	3,700 (注) 1	3,700 (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	2023年6月10日～2038年6月9日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 3,151 資本組入額 1,576(注) 2	同左
新株予約権の行使の条件	①新株予約権を割り当てられた者は、権利行使時においても当社の取締役又は監査役の地位にあることを要する。ただし、当社の取締役及び監査役を退任した場合であっても、退任日から5年以内に限って権利行使ができるものとする。 ②新株予約権については、その数の全数につき一括して行使することとし、これを分割して行使することはできないものとする。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡し、又はこれを担保に供することは原則としてできない。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—	—

(注) 1. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。

ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割 (又は併合) の比率

当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行い新株予約権が承認される場合、又は当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、その他これらの場合に準じ株式数の調整を必要とする場合、当社は必要と認める株式数の調整を行う。

2. 新株予約権の行使による株式の発行については、自己株式を充当する場合には、資本組入は行わないものとする。

第17回新株予約権等

2024年4月10日開催の取締役会の決議により発行した新株予約権は次のとおりです。

2024年4月10日取締役会決議 (付与対象者の区分及び人数：当社取締役5名)		
	事業年度末現在 (2024年2月29日)	提出日の前月末現在 (2024年4月30日)
新株予約権の数(個)	—	83
新株予約権の目的となる株式の種類	—	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数 (株)	—	8,300 (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	—	1
新株予約権の行使期間	—	2024年6月10日～2039年6月9日
新株予約権の行使により株式を発行 する場合の株式の発行価格及び資本 組入額(円)	—	発行価格 2,171 資本組入額 1,086(注) 2
新株予約権の行使の条件	—	①新株予約権を割り当てられた者は、 権利行使時においても当社の取締 役又は監査役の地位にあることを 要する。ただし、当社の取締役及 び監査役を退任した場合であって も、退任日から5年以内に限って 権利行使ができるものとする。 ②新株予約権については、その数の 全数につき一括して行使すること とし、これを分割して行使するこ とはできないものとする。
新株予約権の譲渡に関する事項	—	新株予約権を譲渡し、又はこれを 担保に供することは原則としてで きない。
組織再編成行為に伴う新株予約権の 交付に関する事項	—	—

(注) 1. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。

ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後株式数＝調整前株式数×分割（又は併合）の比率

当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行い新株予約権が承認される場合、又は当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、その他これらの場合に準じ株式数の調整を必要とする場合、当社は必要と認める株式数の調整を行う。

2. 新株予約権の行使による株式の発行については、自己株式を充当する場合には、資本組入は行わないものとする。

② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

記載事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年3月1日～ 2022年2月28日 (注) 1	7	19,768	8,560	1,806,987	8,560	4,792,935
2023年3月1日～ 2024年2月29日 (注) 1	3	19,771	3,834	1,810,821	3,834	4,796,769

- (注) 1. 新株予約権の行使による増加であります。
2. 2024年3月11日に新株予約権の行使により、発行済株式数が1,300株、資本金及び資本準備金がそれぞれ2,457千円増加しております。

(5) 【所有者別状況】

2024年2月29日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	13	18	140	54	59	24,392	24,676	—
所有株式数 (単元)	—	10,648	8,688	126,029	8,322	85	43,520	197,292	42,525
所有株式数 の割合(%)	—	5.397	4.403	63.879	4.218	0.043	22.058	100.00	—

- (注) 自己株式 2,052株は、「個人その他」の欄に20単元及び「単元未満株式の状況」に52株を含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

2024年2月29日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有株式数の割合 (%)
イオン株式会社	千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5-1	11,963	60.51
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋1丁目13-1	758	3.84
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区赤坂1丁目8-1	667	3.37
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	304	1.54
GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	BANKPLASSEN 2, 0107 OSLO 1 OSLO 0107 NO	285	1.44
RBC ISB LUX NON RES/DOM RATE-UCITS CLIENTS ACCOUNT-MIG (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	14 PORTE DE FRANCE, ESCH - SUR - ALZETTE, LUXEMBOURG, L-4360	117	0.59
マックスバリュ西日本株式会社	広島県広島市南区段原南1丁目3-52	114	0.58
イオンフィナンシャルサービス株式会社	東京都千代田区神田錦町1丁目1	114	0.58
イオンモール株式会社	千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5-1	114	0.58
BNYM AS AGT/CLTS 10 PERCENT (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	240 GREENWICH STREET, NEW YORK, NEW YORK 10286 U. S. A.	90	0.46
計	—	14,531	73.50

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2024年2月29日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,727,200	197,272	—
単元未満株式	普通株式 42,525	—	—
発行済株式総数	19,771,725	—	—
総株主の議決権	—	197,272	—

② 【自己株式等】

2024年2月29日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社イオンファンタジー	千葉県美浜区中瀬一丁目 5番地1	2,000	—	2,000	0.01
計	—	2,000	—	2,000	0.01

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	133	459,500
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、2024年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、株式交付、 会社分割に係る移転を行った 取得自己株式	—	—	—	—
その他 (ストックオプションの行使)	—	—	—	—
保有自己株式数	2,052	—	2,052	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2024年5月1日から有価証券報告書提出日までのストック・オプションの権利行使及び単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆さまへの安定的利益還元を経営の最重要目標のひとつとして位置づけており、内部留保の充実と財務体質の強化及び、業績、配当性向等を総合的に勘案して、長期的、安定的な利益還元を基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、会社法第459条第1項に基づき、中間期末日(毎年8月末日)及び期末日(毎年2月末日)以外の日を基準日に定めて剰余金の配当をすることができる旨を定款に定めており、これらの剰余金の配当の決定機関は取締役会であります。

内部留保資金につきましては、経営体質の一層の充実を図りつつ、国内及び海外の新規出店や既存店への設備投資等、事業展開の原資として役立ててまいります。上記方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株につき普通配当5円の配当といたしました。

これにより、中間配当5円を合わせた当期の年間配当金は1株当たり10円となります。

なお、次期の配当金につきましては、上記の基本方針に基づき、剰余金の配当を年2回実施することとし、1株につき、中間5円、期末5円、年間10円を予定しております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2023年10月11日 取締役会決議	98,843	5
2024年4月10日 取締役会決議	98,848	5

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

① コーポレート・ガバナンスに関する基本方針

当社は、従来の社是を昇華させた「こどもたちの夢中を育み、“えがお”あふれる世界をつくる。」というパーパスのもと、その目指す姿を「こどもとそのファミリーのえがおのために、世界中に楽しい『あそび×まなび』を届けるオンリーワンのエデュテイメント企業」とし、持続可能な社会への貢献と企業価値向上を実現する企業としてサステナビリティ経営を実行してまいります。その実現に向けコーポレート・ガバナンスを経営の最重要課題のひとつとして認識し、実効的なコーポレート・ガバナンスを構築してまいります。

② コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

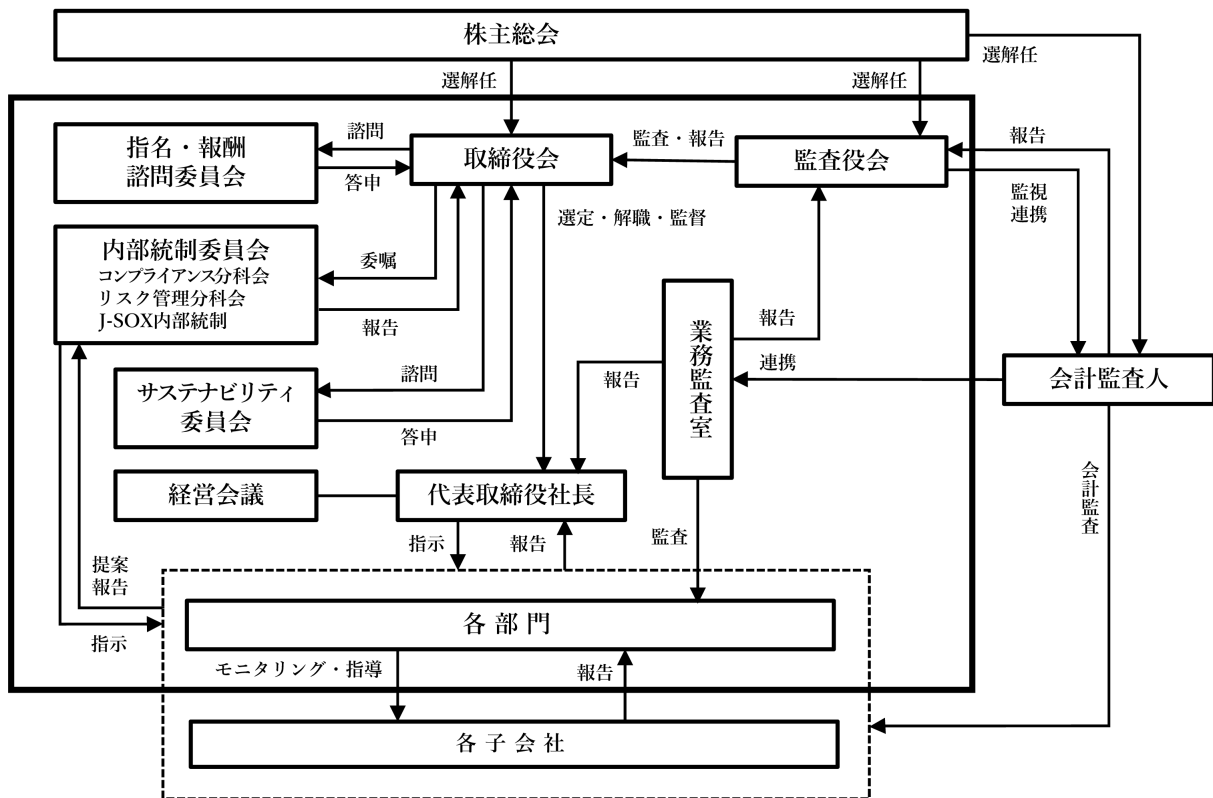
- 「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念と当社のパーパスを、すべての企業活動の指針とします。
- お客さま、ステークホルダーとの積極的な対話に努めるとともに、主体的な情報発信を行い、適切な協働を実現します。
- 適切でわかりやすい情報開示を行い、意思決定の透明性・公正性を確保します。
- 取締役会は当社の持続的成長と企業価値向上のため、経営理念に基づいた成長戦略・経営計画を示し、迅速・果敢な意思決定を支援し、実効性の高い監督を行います。
- 当社は企業活動の中核としてサステナビリティ経営を進めていくことを掲げました。持続可能な社会への貢献と企業価値向上を実現する企業を目指し、サステナビリティ方針を制定し、具体的取組み内容と数値目標を定め、サステナビリティ経営の実効性を高めてまいります。
- 株主との建設的な対話を通じて得られた意見や評価を経営に反映することにより、持続的成長と企業価値向上に活かします。

③ 企業統治の体制

i) 概要及び当該体制を採用する理由

当社は監査役制度を採用しております。当社の取締役は3名以上12名以内とする旨定款に定めております。監査役に関しては同じく定款で員数を4名以内と定めております。監査役と当社との間に人的関係、資本的關係又は取引関係その他の利害関係はありません。当社は経営の監督機能と業務執行機能を明確にし、コーポレートガバナンス体制を強化するとともに、業務執行のスピードアップ及び経営の効率化を図ることを目的に執行役員制度を導入し、会社の特定の領域の業務執行を執行役員に委ねております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制は次のとおりです。



a. 取締役会

取締役会は取締役8名(うち社外取締役3名)で構成され、経営の方針、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、取締役の職務の執行を監視する機関として、月1回の定時取締役会のほか、必要に応じて随時開催しております。

有価証券報告書提出日現在の取締役会の構成員は以下のとおりです。

藤原信幸、藤原徳也(議長・代表取締役社長)、井関義徳、田村純宏、小岩渉、山下真実(社外取締役)、草島智咲(社外取締役)、齋藤政彦(社外取締役)

b. 監査役会

監査役会は監査役4名(うち社外監査役3名)で構成されております。監査役は取締役会に出席し、取締役会ならびに取締役の意思決定、業務執行に関する充分な監視機能を果たすとともに、定期的に監査役会を開催し、取締役会の業務執行状況及び各取締役の業務執行について協議を行うほか、全取締役から担当業務報告を受けて意見具申を行っております。また、内部監査部門及び会計監査人と、必要に応じて相互の情報交換・意見交換を行うなどの連携を密にして、監査の実効性と効率性の向上をめざしております。

有価証券報告書提出日現在の監査役会の構成員は以下のとおりです。

河口仁典(議長・常勤社外監査役)、杉本茂次(社外監査役)、岡本紫苑(社外監査役)、野口克義

c. 指名・報酬諮問委員会

指名・報酬諮問委員会は独立社外取締役3名及び代表取締役社長1名で構成され、取締役の指名・報酬等に係る評価・決定の客観性を担保するとともに、その決定プロセスを明確にすることにより、コーポレートガバナンス体制の充実を図る目的で設置しております。取締役会の諮問に基づき、取締役の指名・報酬の決定について審議し、取締役会に答申を行っております。

有価証券報告書提出日現在の指名・報酬諮問委員会の構成員は以下のとおりです。

山下真実(委員長・社外取締役)、藤原徳也、草島智咲(社外取締役)、齋藤政彦(社外取締役)

d. 内部統制委員会

内部統制委員会は社内取締役、常勤監査役及び業務監査室長で構成され、「内部統制システム構築に関する基本方針」に基づき、コーポレートガバナンスの強化を推進する体制を構成することを目的とし、取締役会を補佐する機関として設置しております。分科会にてコンプライアンスやリスク管理の事項に関して協議し、取締役会へ報告を行っております。

e. サステナビリティ委員会

サステナビリティ委員会は当社マテリアリティに関する社外の有識者(取締役会にて決議をうけたもの)、社内取締役及びその他委員長が指名したもので構成され、「こどもたちの夢を育み、“えがお”あふれる世界をつくる。」というパーパスの実現に向け、事業を通じて取り組むことができる環境・社会課題の解決と事業の成長の両立を目的として設置しております。取締役会の諮問に基づき、当社のサステナビリティ経営に関する事項について審議し、取締役会に答申を行っております。

これらにより当社の業務の適正が確保されていると考え、現在の体制を選択しております。

ii) その他の企業統治に関する事項

a. 内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムの基本方針の概要は次のとおりであります。

イ. 当社及び子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ・当社及び子会社は、より良い地域社会との関係を構築し、企業としての社会的責任を果たすとともに、コンプライアンス経営を重視したイオンの基本理念を遵守することを、取締役及び全従業員に徹底する。
- ・当社は、代表取締役を委員長とする内部統制委員会を設置し、コンプライアンス及びリスクマネジメントを推進するとともに内部監査部門、監査役と連携しコンプライアンス経営を維持する体制とする。
- ・当社は、親会社の内部通報制度に参加しており、当会社に関する事項は、当社の関係役員に通報され、重大な事案は取締役会及び監査役会に報告される他、親会社の監査委員会にも報告される。

ロ. 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ・社内規程に基づき、各会議議事録は事務局により作成・保管され、取締役の決定に係る決裁書は管理担当部門に適切に保管・管理される。これらの重要文書については、取締役が常時閲覧できる体制とする。
 - ・当社は、情報セキュリティ管理規程、個人情報安全管理規程等の社内規則に沿って適切に情報管理を行うとともに、規程の見直し等を適時行う。
- ハ. 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- ・リスクマネジメント担当を設置し、あらかじめ具体的なリスクを想定・分類をおこない適宜、規程・マニュアル等を制定、改訂して事前に対策を講じる。
 - ・当社は、リスク管理分科会において当社グループ全体のリスクマネジメント推進に関する課題・対策の審議を行い、内部統制委員会、取締役会に報告する。
 - ・有事の際は、社内規程に従い対策本部等を設置し、災害の拡大を防止し、これを最小限に止める体制を整える。また、必要に応じて親会社及びグループ会社と共同・連携した体制をとる。
- ニ. 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- ・取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するために、定時取締役会を毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催する。
 - ・当社は取締役会規則を定め、取締役会の決議事項及び報告事項を明確にするとともに、職務責任権限基準表及び職務責任権限規程等で取締役会決議事項以外の意思決定についても決裁権限を明確にし、業務遂行に必要な組織の分掌、職務の範囲及び責任を明確にする。
 - ・取締役会は、経営の重要な意思決定と経営・業務の監督に十分な審議を尽くす。
 - ・当社は、執行役員制度を導入しており業務執行のスピードアップを図るとともに経営会議等の会議体を活用しグループの効率的な経営を図る。
- ホ. 当社並びにその親会社及び子会社から成る、企業集団における業務の適正を確保するための体制
- グループ経営に資する事項は、親会社において報告・協議するが、当社及び子会社固有の事項及び具体的な施策に関しては、経営の自主性・独自性を保持する。コンプライアンスをはじめとして、各部門が親会社及びグループ会社の関連部門から適宜、情報提供や業務指導を受け、業務の適正を確保する。
- ・子会社の取締役等の職務の遂行に係る事項の当社への報告に関する体制

当社は、子会社の経営内容を的確に把握するため、社内規程に従い、当社の社長承認または定期的・臨時的に当社取締役会等への報告を求める。
 - ・子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社の社内規程に基づき、当社のリスク管理体制に準じた自立的なリスク管理体制を構築・運用させるとともに、適切な報告を求める。

当社は、当社グループ全体のリスク管理について定める社内規程を策定し、同規程において子会社に緊急事態が発生した場合においても、損失の最小化を図るように管理する。
 - ・子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、子会社の経営の独立性を尊重しつつ、適切かつ効率的な業務執行を行う体制の構築を支援する。

取締役会等における決定内容については、子会社の職務責任権限規程に基づき、子会社取締役の下、各部門長が適切かつ効率的な業務執行を行う。
- ヘ. 当社の監査役の職務を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項並びに監査役の当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
- 監査役が法令及び関連する社内諸規程に定める業務を遂行するために、監査役の職務を補助する使用人を求めた場合、監査役の指揮下に執行部門から独立して配置するとともに、使用人への指示が実効的に行われる体制とする。
- ト. 当社の取締役及び使用人並びに当社子会社の取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制並びに監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ・当社の取締役及び使用人並びに当社子会社の取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者は、監査役に対して定期的、臨時的に法令及び社内規程に定められた事項の他、監査役から求められた事項について報告する体制とする。

- ・当社は、前項の監査役への報告を行った者に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを行うことを禁止し、その旨を当社および子会社の取締役、監査役並びに使用人に周知徹底する。
- ・当社業務監査室は、当社グループにおける内部監査、コンプライアンス、リスク管理等の状況等を定期的に当社監査役に報告する。
- ・監査役は、取締役会の他、必要に応じて経営会議その他重要な会議への参加及びその会議資料等の閲覧ができるとともに、監査役の要請があれば直ちに関係書類・資料等が提出される体制とする。
- ・監査役職務執行について生じる費用又は債務は、請求のあった後速やかにこれに応じる。

チ. 反社会的勢力排除のための体制

社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体に対しては、断固としてこれらを排除し、不当な要求や請求には弁護士や警察等とも連携して、全社をあげて組織的に対処する。

b. リスク管理体制の整備の状況

全社的リスクマネジメント構築に向けた取り組みとして、リスクマネジメント担当を任命し、当社を取り巻くリスクの現状調査を実施し、リスクの洗い出しと評価を行っております。この結果に基づき、優先順位を付けた対策の実施、規程等の整備、社内管理体制の整備に取り組んでおります。

c. 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社は社内規程に従い、子会社から定期的・臨時的に報告を求め、子会社のリスク管理体制の構築・運用を推進するとともに、子会社の内部統制システム構築に向けた基本規程の整備を支援する体制としております。

iii) 責任限定契約の内容の概要

当社は、社外取締役大矢和子氏、社外取締役山下真実氏、社外取締役草島智咲氏、社外監査役杉本茂次氏、及び社外監査役岡本紫苑氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役又は社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

iv) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者がその地位に基づいて行った行為に起因して、損害賠償請求された場合の法律上の損害賠償金及び争訟費用を補填します。また、被保険者が被った損害を会社が補償（会社補償）する場合、この会社補償についても補填します。

当該保険契約の被保険者は当社の取締役、監査役です。

④ 取締役の定数

当社の取締役は、3名以上12名以内とする旨定款に定めております。

⑤ 取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

⑥ 剰余金の配当の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

⑦ 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年8月末日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能にするためであります。

⑧ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

⑨ 取締役会、指名・報酬諮問委員会の活動状況

i) 取締役会の活動状況

当年度において当社は取締役会を月1回の定時取締役会のほか、必要に応じて随時開催しており、個々の取締役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
藤原 信幸	18回	18回
藤原 徳也	18回	18回
井関 義徳	18回	18回
京極 武	18回	18回
田村 純宏	18回	18回
小岩 渉	18回	18回
大矢 和子	18回	17回
山下 真実	18回	17回
草島 智咲	14回	14回

(注) 草島智咲氏は、2023年5月18日開催の第27回定時株主総会において取締役に就任したため、就任後に開催された取締役会の出席状況を記載しております。

取締役会における具体的な検討内容としては、経営に関する基本方針、中期経営計画、決算・財務関連、サステナビリティ経営、海外子会社に対する貸付・保証、その他重要な業務執行に関する事項となります。

ii) 指名・報酬諮問委員会の活動状況

当年度において当社は指名・報酬諮問委員会を7回開催しており、個々の取締役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
大矢 和子	7回	7回
山下 真実	7回	7回
草島 智咲	3回	3回
藤原 徳也	7回	7回

(注) 草島智咲氏は、2023年5月18日開催の第27回定時株主総会において取締役に就任したため、就任後に開催された指名・報酬諮問委員会の出席状況を記載しております。

指名・報酬諮問委員会における具体的な検討内容としては、機構改革案、役員体制および役員候補、取締役の基本報酬および業績報酬等に関する事項となります。

(2) 【役員の状況】

① 役員一覧

男性9名、女性3名（役員のうち女性の比率 25.00%）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役会長	藤原 信幸	1968年8月20日生	2004年5月 当社入社 2012年1月 永旺幻想(北京)児童遊楽有限公司 (現永旺幻想(中国)児童遊楽有限 公司) 董事総経理 2013年1月 同社董事長総経理 2014年1月 同社董事長 2015年9月 当社中国事業責任者 2017年5月 当社取締役 2018年5月 当社代表取締役社長 2021年3月 イオン株式会社サービス専門店担 当責任者 2021年5月 当社代表取締役会長 2021年5月 株式会社メガスポーツ取締役 2021年5月 株式会社ジーフット取締役 2021年5月 株式会社コックス取締役 2022年5月 当社取締役 2022年5月 イオンエンターテイメント 株式会社取締役会長 2023年3月 イオン株式会社サービス担当責任 者(現任) 2023年3月 イオンエンターテイメント 株式会社代表取締役社長(現任) 2023年5月 当社取締役会長(現任) 2023年5月 株式会社イオンイーハート取締役 (現任)	注3	4,900
代表取締役社長	藤原 徳也	1970年6月5日生	2000年3月 当社入社 2008年3月 当社商品本部機械グループチーフ マネジャー 2009年3月 当社商品本部メダルグループチーフ マネジャー 2010年12月 当社商品本部長代行 2011年9月 当社商品本部長 2013年3月 当社商品開発本部長 2013年5月 当社取締役 2017年3月 当社グローバル商品・新規事業統 括 2017年5月 当社常務取締役 2020年3月 当社国内事業責任者兼アミューズ メント事業本部長 2021年3月 当社国内事業責任者 2021年5月 当社代表取締役社長(現任) 2023年5月 イオンエンターテイメント株式会 社取締役(現任)	注3	6,800

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役兼常務執行役員 管理統括兼リスクマネジ メント担当	井関 義徳	1967年7月8日生	1990年4月 株式会社ダイエー入社 1995年4月 株式会社ダイエーレジヤード (現当社)入社 2006年9月 株式会社ファンフィールド(現当 社)経営管理部長 2014年9月 同社経営企画室部長 2015年6月 当社社長室室長代行 2016年3月 当社広報・IR室室長 2017年3月 当社財經・管理本部長代行 2017年9月 当社財經・管理本部長 2018年3月 当社財經本部長 2019年5月 当社取締役 2021年5月 当社常務取締役管理統括兼財經本 部長兼リスクマネジメント担当 2022年3月 当社常務取締役管理統括兼リス クマネジメント担当 2022年5月 当社取締役兼常務執行役員管理統 括兼リスクマネジメント担当(現 任)	注3	400
取締役兼執行役員 国内事業責任者	田村 純宏	1968年5月5日生	1993年12月 ジャスコ株式会社(現イオン株式 会社)入社 2008年3月 当社商品本部景品グループチーフ マネジャー 2009年3月 当社商品本部プライズグループチ ーフマネジャー 2011年2月 当社西日本事業本部長 2012年4月 当社西日本営業本部長 2012年5月 当社取締役(現任) 2013年12月 当社西日本営業本部長兼新規事業 開発本部長 2014年5月 当社営業統括兼新規事業開発本 部長 2014年9月 当社営業統括 2015年5月 当社西日本営業本部長 2015年9月 当社営業企画本部長 2016年5月 当社営業統括 2017年5月 当社開発本部長 2020年3月 当社グローバル開発本部長 2021年3月 当社開発本部長 2022年3月 当社商品・開発統括兼開発本部長 2022年5月 当社取締役兼執行役員商品・開発 統括兼開発本部長 2024年3月 当社執行役員国内事業責任者(現 任)	注3	6,700

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役兼執行役員 海外事業責任者兼 プレイグラウンド開発本 部長	小岩 渉	1977年3月7日生	<p>2003年3月 当社入社</p> <p>2012年2月 当社業態開発グループゼネラルマネジャー</p> <p>2013年5月 当社グローバル事業推進本部長代行</p> <p>2014年8月 当社新規事業開発本部長代行</p> <p>2016年3月 当社アセアン事業責任者兼インドアプレイグラウンド事業部長</p> <p>2016年4月 AEON Fantasy(Thailand)Co.,Ltd. 取締役(現任)</p> <p>2016年4月 PT.AEON FANTASY INDONESIA 取締役(現任)</p> <p>2016年4月 AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC. 取締役(現任)</p> <p>2016年6月 AEON FANTASY(MALAYSIA) SDN. BHD. 取締役会長(現任)</p> <p>2017年5月 当社取締役(現任)</p> <p>2019年3月 当社海外事業本部長兼インドアプレイグラウンド事業部長</p> <p>2020年3月 当社アセアン事業責任者</p> <p>2022年3月 当社アセアン事業責任者兼エデュテイメント事業開発本部長</p> <p>2022年5月 当社取締役兼執行役員海外事業統括兼エデュテイメント事業開発本部長</p> <p>2024年3月 当社執行役員海外事業責任者兼プレイグラウンド開発本部長(現任)</p>	注3	1,300
取締役	山下 真実	1978年5月23日生	<p>2001年4月 日本電気株式会社入社</p> <p>2006年8月 J Pモルガン証券株式会社債権営業部クレジットセールス担当</p> <p>2007年11月 日本リスク・データ・バンク株式会社事業推進部グループマネジャー</p> <p>2013年12月 株式会社こころく代表取締役(現任)</p> <p>2017年2月 一般社団法人Learning Journey 理事</p> <p>2018年6月 本多通信工業株式会社社外取締役</p> <p>2022年5月 当社社外取締役(現任)</p>	注3	—
取締役	草島 智咲	1965年4月8日生	<p>1983年4月 株式会社セガ・エンタープライゼス(現株式会社セガ)入社</p> <p>2011年1月 同社コーポレート本部情報システム部部长</p> <p>2018年9月 株式会社ウィズソフィア代表取締役(現任)</p> <p>2019年6月 シュッピン株式会社社外取締役(現任)</p> <p>2023年5月 当社社外取締役(現任)</p>	注3	—

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	齋藤 政彦	1962年4月1日生	<p>1984年4月 富士ゼロックス株式会社（現富士フイルムビジネスソリューション株式会社）入社</p> <p>2004年4月 同社海外営業本部マーケティング部長</p> <p>2008年4月 Fuji Xerox Asia Pte Ltd (Malaysia Operations) 社長</p> <p>2008年4月 Fuji Xerox Malaysia Sdn. Bhd. 社長</p> <p>2012年10月 同社グローバルサービス事業本部営業推進統括部長</p> <p>2017年4月 同社グループ会社経営管理推進部長</p> <p>2019年7月 同社新成長事業創出部長</p> <p>2022年5月 富士フイルムホールディングス株式会社 監査役会室シニアアドバイザー（現任）</p> <p>2024年5月 当社社外取締役（現任）</p>	注5	—
常勤監査役	河口 仁典	1963年10月14日生	<p>2002年9月 株式会社イオンフォレスト入社</p> <p>2002年9月 同社総合企画室長</p> <p>2007年12月 株式会社イオンボディ代表取締役社長</p> <p>2009年3月 株式会社イオンフォレスト総合企画室長兼CRM部長</p> <p>2009年4月 同社管理本部副本部長</p> <p>2011年4月 同社取締役管理本部長</p> <p>2013年5月 ローラアシュレイジヤパン株式会社取締役管理本部長兼海外事業担当</p> <p>2018年9月 イオン株式会社戦略部</p> <p>2021年5月 リフォームスタジオ株式会社取締役経営管理担当</p> <p>2023年5月 当社常勤社外監査役（現任）</p> <p>2023年5月 イオンエンターテイメント株式会社社外監査役（現任）</p> <p>2023年5月 永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司監事（現任）</p>	注5	—
監査役	杉本 茂次	1951年7月1日生	<p>1974年4月 等松・青木監査法人（現有限責任監査法人トーマツ）入所</p> <p>1978年4月 公認会計士登録</p> <p>1989年7月 同監査法人パートナー就任</p> <p>2015年12月 同監査法人退職</p> <p>2016年1月 杉本茂次公認会計士事務所開設</p> <p>2016年5月 当社社外監査役（現任）</p> <p>2016年6月 株式会社イオン銀行社外監査役（現任）</p> <p>2016年6月 日鉄住金物産株式会社（現日鉄物産株式会社）社外監査役（現任）</p> <p>2020年6月 大阪製鐵株式会社社外監査役（現任）</p>	注4	—

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
監査役	岡本 紫苑	1984年 8月14日生	2008年 9月 森・濱田松本法律事務所入所 2013年 9月 Herbert Smith Freehills ロンドン・東京両オフィスにて執務 2015年 4月 三菱商事株式会社法務部出向 2016年 8月 ヤフー株式会社入社 2016年 8月 YJキャピタル株式会社（現Z Venture Capital株式会社）出向 2021年 8月 同社CF0兼General Counsel 2022年 4月 Zホールディングス株式会社出向 2022年 4月 同社財務統括部 エンゲージメント・マネジャー（現任） 2022年 5月 当社社外監査役（現任） 2022年 9月 株式会社WAKUWAKU社外監査役 2023年 1月 オツモ株式会社社外取締役（現任） 2024年 1月 neo終活株式会社代表取締役（現任）	注 5	—
監査役	野口 克義	1970年 4月19日生	1991年 4月 ジャスコ株式会社（現イオン株式会社）入社 2010年 5月 同社経理部主計グループマネージャー 2013年 8月 同社連結経理部マネージャー 2018年 4月 同社経理部マネージャー 2022年 3月 同社経理部長（現任） 2023年 5月 当社監査役（現任）	注 5	—
計					20, 100

- (注) 1. 取締役山下真実、草島智咲、齋藤政彦は、社外取締役であります。
2. 監査役河口仁典、杉本茂次、岡本紫苑は、社外監査役であります。
3. 「取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする」旨定款に定めております。
4. 「監査役任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする」旨定款に定めております。
5. 当社定款第27条第2項の定めにより、任期満了前に退任した監査役の補欠として選任された監査役の任期は、前任監査役の任期の満了する時までとなります。

② 社外役員の状況

当社の社外取締役は3名であります。また、社外監査役は3名であります。

社外取締役山下真実氏との間には人的関係、資金的関係又は取引関係はありません。長年にわたり経営者として活躍されており、起業や経営に大変豊富な経験と知見を有しております。さらに、留学や米系投資銀行での経験から、国際ビジネスへの理解力、国内外の情報分析力も高く、当社が今後成長していくために不可欠な海外展開や新規事業について、高度な指導や助言をいただけるものと判断し、社外取締役に選任しております。なお、同氏は、一般株主と利益相反の生じるおそれのない独立役員であり、東京証券取引所へその旨を届け出ております。

社外取締役草島智咲氏との間には人的関係、資金的関係又は取引関係はありません。長年にわたりIT関連のさまざまな業務を担当しており、経営者としても大変豊富な経験と知識を有し、当社が今後成長していくために不可欠なDXの推進やオンライン分野の事業拡大について、高度な指導や助言をいただけるものと判断し、社外取締役に選任しております。なお、同氏は、一般株主と利益相反の生じるおそれのない独立役員であり、東京証券取引所へその旨を届け出ております。

社外取締役齋藤政彦氏との間には人的関係、資金的関係又は取引関係はありません。前職においては、米国に赴任された後、アジア・中国・オセアニアにてプロダクトマーケティングのリージョン統括責任者を経て、マレーシア現地販売会社の社長を務めており、マーケティング及び海外事業に大変豊富な経験と知見を有しております。また、国内外の子会社に経営管理とガバナンス強化、各社経営課題の改善支援を行ってまいりました。当社が今後成長していくために不可欠な海外展開、事業多角化及びコーポレートガバナンスについて、高度な指導や助言をいただけるものと判断し、社外取締役に選任しております。なお、同氏は、一般株主と利益相反の生じるおそれのない独立役員であり、東京証券取引所へその旨を届け出ております。

社外監査役河口仁典氏との間には、人的関係、資金的関係又は取引関係はありません。長年にわたり株式会社イオンフォレストにおいて企業経営に携わり、管理分野を歴任され、同社の成長発展に寄与されました。これまでの豊富な経験と幅広い見識を生かし、経営全般における監督と有効な助言をいただけるものと考え、社外監査役に選任しております。

社外監査役杉本茂次氏との間には、人的関係、資金的関係又は取引関係はありません。公認会計士として監査法人において長年にわたり会計監査業務に携わり、会計監査における豊富な経験と幅広い見識を生かし、経営全般における監督と有効な助言をいただけるものと考え、社外監査役に選任しております。なお、同氏は、一般株主と利益相反の生じるおそれのない独立役員であり、東京証券取引所へその旨を届け出ております。

社外監査役岡本紫苑氏との間には、人的関係、資金的関係又は取引関係はありません。日本および米国の弁護士資格を有しM&A・企業再編および会社法務を中心に国内外の案件に従事しており、豊富な経験と幅広い見識を生かし、経営全般における監督と有効な助言をいただけるものと考え、社外監査役に選任しております。

当社は社外取締役及び社外監査役を選任することで、経営への監視機能を強化しております。その経験・知識等を活用した、社外取締役及び社外監査役による独立・公正な立場からの、取締役の職務執行に対する監視機能が十分に期待できることから、現状の体制としております。

当社は社外取締役及び社外監査役の独立性に関する基準を定めており、その選任に際しては、当該基準及び経歴などを踏まえ取締役会で審議検討のうえ、独立社外役員の候補者を選任しております。

③ 社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役及び社外監査役は、取締役会を通じて内部統制の状況を把握し、中立・専門的観点から適宜意見を述べることで取締役の職務執行を適正に監督しております。また、社外監査役は、監査役会を通じて、監査役監査、会計監査、内部監査の状況を把握し、内部統制システムの整備と運用状況を確認しております。また、内部監査部門の業務監査室、会計監査人及び内部統制部門と必要に応じてミーティングを実施することで、情報共有と連携を図っております。

(3) 【監査の状況】

① 監査役監査の状況

当社における監査役監査は、監査役4名（うち常勤社外監査役1名、非常勤社外監査役2名、非常勤監査役1名）が、監査役会が定めた方針に従い、取締役会に出席して意見を述べるほか、取締役の職務執行を監視・監督しております。

なお、社外監査役の杉本茂次氏は、公認会計士として監査法人において長年にわたり会計監査業務に携わり、会計監査における豊富な経験と高度な知識を有しております。

当事業年度においては、監査役会を15回開催しており、個々の監査役の出席状況は以下のとおりであります。

氏名	出席回数
河口 仁典	11回(注) 1
杉本 茂次	14回
岡本 紫苑	15回
野口 克義	11回(注) 1
竹垣 吉彦	4回(注) 2
林 恭子	4回(注) 2

(注) 1. 監査役就任後の監査役会は11回開催しております。

2. 監査役辞任までの監査役会は4回開催しております。

監査役会においては、監査方針・監査計画に基づく監査状況、計算書類等及び事業報告の適法性、当社グループのコーポレート・ガバナンスや内部統制システムの整備・運用状況、会計監査人の評価などを主な検討事項として審議しております。

監査役（常勤監査役・非常勤監査役）の主な活動としては、当社取締役等との意見交換、当社取締役会や経営会議など重要会議への出席、重要な決議書類等の閲覧、会計監査人からの監査の実施状況・結果報告の確認を行っております。

また、常勤監査役は、当社及び海外子会社における業務監査、主要な海外子会社の取締役会への出席及び海外子会社の社長を中心に経営幹部等との意見交換を行っており、その内容は監査役会で報告する等、適時に非常勤監査役と情報共有、意見交換を行っております。

② 内部監査の状況

当社における内部監査は、業務監査室(6名)が、経営及び業務活動について公正な立場で評価、指導を行っております。業務監査室は、年間の監査計画に基づき業務監査を実施し、適法性と適正性の確保のための指導・改善に努めております。当社では、業務監査室、監査役、会計監査人が随時意見交換を行い、互いに連携して当社グループの業務運営状況を監視して、問題点の把握、指摘、改善勧告を行っております。内部監査の実効性を確保するための取り組みとして、業務監査室は、代表取締役社長および監査役会へ月度業務報告を行っております。また、取締役会に対しては、年1回、1年間の報告を行っております。

③ 会計監査の状況

i) 監査法人の名称

有限責任監査法人トーマツ

ii) 継続監査期間

25年間

iii) 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 武井 雄次

指定有限責任社員 業務執行社員 五十嵐 大典

iv) 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士7名、その他18名であり、システム専門家等の専門的な知識を有する者を含んでおります。

v) 監査法人の選定方針、理由及び評価

当社は、監査役会にて、会計監査人の選定にあたり、監査実施状況を踏まえ、監査法人の独立性や専門性の有無について確認を行っております。その結果、監査役会は、有限責任監査法人トーマツが当社の会計監査を適切かつ妥当に行うことを確保する体制を備えているものと評価し、有限責任監査法人トーマツを選定しております。

監査役会は、会計監査人が次に挙げる事項に該当すると判断した場合には、会計監査人の解任又は不再任を決定いたします。

- a. 会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると判断される場合
- b. 会社法、公認会計士法等の法令違反による懲戒処分や監督官庁からの処分を受けた場合
- c. 会計監査人への信頼を著しく失わせる重大な事由が発生したと認められる場合

④ 監査報酬の内容等

i) 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	58,500	—	58,500	—
連結子会社	—	—	—	—
計	58,500	—	58,500	—

ii) 監査公認会計士等と同一のネットワーク（デロイトトウシュトーマツ）に対する報酬（i）を除く）

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	—	—	—	—
連結子会社	35,989	7,294	46,267	2,683
計	35,989	7,294	46,267	2,683

連結子会社における非監査業務の内容は、会計・税務等に関するアドバイザー業務等であります。

iii) その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

iv) 監査報酬の決定方針

監査公認会計士等に対する報酬の額の決定に関する方針について、当社では特段の定めを設けておりませんが、作業負荷、作業時間及び人員を考慮し、監査法人と協議の上、適正と判断される報酬額を監査役会の同意を得た上で決定しております。

v) 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、取締役等及び会計監査人から必要な資料を入手し、かつ報告、説明を受けました。また、会計監査人の監査計画の内容及び監査職務の遂行状況、報酬見積りの算出根拠を確認いたしました。これらのことを踏まえ、今後も決算体制を検証し、監査報酬のより一層の適正化を図っていくことを合わせて確認し、当事業年度における監査報酬額に対して同意いたしました。

(4) 【役員の報酬等】

① 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

当社の取締役の報酬は、社外取締役が委員長かつ過半数を占める指名・報酬諮問委員会で協議のうえ取締役会に答申することにより、プロセスの客観性・透明性の高いものとしております。

取締役の報酬限度額は、2007年5月16日開催の株主総会において、金銭報酬限度額が年額360,000千円以内、株式報酬型ストックオプション報酬限度額が年額40,000千円以内と決議いただいております。監査役の報酬限度額は、2007年5月16日開催の株主総会において、年額60,000千円以内と決議いただいております。

i) 報酬ポリシー

a. 報酬制度の理念・目的

- ・当社の取締役は、基本理念のもとで常に挑戦し続け、会社の持続的な成長に貢献する。
- ・当社の取締役は、役員の果たすべき役割と経営目標の達成度合いに応じた報酬を得る。

b. 報酬制度の基本方針

- ・ステークホルダーの皆さまに理解され支持される公正感が高い制度とする。
- ・当社の業績と連動し、経営戦略の遂行を強く動機付けできる制度とする。
- ・経営を担う人材の確保・維持及びモチベーションに繋がる報酬水準とする。
- ・当社の経営環境及び業績を踏まえて、適時適切に見直すものとする。

ii) 取締役報酬

a. 基本報酬

- ・役位別に設定した基準金額内で、個別評価に基づき定め毎月支給される定額の金銭報酬とする。

b. 業績報酬

- ・ 役員別基準金額に対して、連結経常利益予算の達成率に基づく係数（0%～200%）により算出する全社業績報酬に、担当事業等への貢献度に基づく個別の係数（80%～120%）を乗じて決定する。
- ・ 基本報酬と合わせた総現金報酬に占める業績報酬の比重は25%から45%とし、上位役員ほどその比重を高める。
- ・ 業績報酬に係る指標は、平常の事業成績を最も適切に表すものとして、連結経常利益予算達成率を主な指標とする。

c. 株式報酬型ストックオプション

- ・ 株価や業績と報酬との連動性を高め、株価上昇によるメリットのみならず株価下落によるリスクまでも株主さまと共有することで、継続した業績向上と企業価値増大への意欲を高めることを目的に、業績を反映させた株式報酬型ストックオプションとして新株予約権を割り当てる。
- ・ 新株予約権の割り当て数については、役員別基準数に対して、当該年度の業績に基づき年度終了後に決定する。

d. 社外取締役報酬

- ・ 社外取締役には基本報酬を支給する。

iii) 監査役報酬

監査役には職責に応じた基本報酬を支給する。

② 業績報酬に係る指標の目標及び実績について

当事業年度における連結経常利益は4,488,507千円となり、期初に設定した目標連結経常利益を上回る結果となりました。

③ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限

当社の取締役の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は取締役会において決議しております。指名・報酬諮問委員会は、取締役の業績評価の方針並びに業績評価及び基本・業績報酬の支給水準の妥当性を協議し取締役会に答申しております。取締役会はこれに基づき、基本・業績報酬の支給について協議し、各取締役の報酬額の決定については代表取締役社長に委任しております。委任権限の内容は、各取締役の基本報酬の額及び担当事業等の業績による業績報酬の額の決定としております。当社の監査役の報酬等の額は、株主総会で決議された報酬限度額の範囲内において、常勤監査役と非常勤監査役の別、業務分担等を勘案し、監査役の協議により決定しております。

④ 当該事業年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容が当該方針に沿うものであると取締役会が判断した理由

取締役の個人別の報酬額については、2023年5月18日開催の指名・報酬諮問委員会で当該方針に則った審議を行っているため、取締役会も基本的にその答申を尊重し、決定方針に沿うものであると判断しております。

⑤ 役員の報酬等の額の決定過程における取締役会及び指名・報酬諮問委員会の活動内容

<取締役会の活動内容>

当事業年度の役員報酬については、以下のとおり審議・決定いたしました。

- ・ 2023年3月29日：株式報酬型ストックオプションの支給基準について
- ・ 2023年4月26日：役員報酬減額の件
- ・ 2023年5月18日：取締役業績報酬決定の件
- ・ 2023年5月18日：取締役基本報酬および業績報酬基準額決定の件

<指名・報酬諮問委員会の活動内容>

指名・報酬諮問委員会は、取締役の業績評価の方針並びに業績評価及び基本・業績報酬の支給基準の妥当性を協議し、取締役会に答申することを目的としております。

- ・2023年3月27日：来期の役員体制および役員候補について
- ・2023年4月12日：2023年度役員報酬について
- ・2023年4月26日：2022年度業績報酬および2023年度月額報酬について
- ・2023年5月8日：業績報酬について
- ・2023年5月18日：業績報酬および月額報酬について
- ・2024年1月26日：来期の役員体制および役員候補について
- ・2024年2月27日：来期の役員体制および役員候補について

⑥ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	業績報酬	株式報酬型 ストックオプション	左記のうち、 非金銭報酬等	
取締役 (社外取締役を除く)	131,595	60,119	46,720	24,756	—	5
監査役 (社外監査役を除く)	—	—	—	—	—	—
社外役員	37,200	37,200	—	—	—	7

(注) 千円未満を切り捨てて表示しております。

⑦ 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

⑧ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

① 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、株式の価値の変動又は配当によって利益を受けることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式とし、それ以外を純投資目的以外の目的である投資株式として区分しております。

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

i) 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、合理的理由が認められる場合にのみ当該株式を保有しております。保有の合理性については保有に伴う採算や取引関係の維持強化等の保有目的を勘案し、判断しております。

ii) 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	2	5,323
非上場株式以外の株式	—	—

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

該当事項はありません。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません

iii) 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

・ 特定投資株式

該当事項はありません。

・ みなし保有株式

該当事項はありません。

③ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

④ 当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの

該当事項はありません。

⑤ 当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2023年3月1日から2024年2月29日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2023年3月1日から2024年2月29日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、各種セミナーや参考図書によって理解を深め、会計基準等の変更等についての確に対応することが出来る体制を整備しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,081,975	7,516,588
売掛金	248,227	136,357
売上預け金	※1 734,050	※1 959,411
商品	730,043	699,429
貯蔵品	1,426,373	1,717,005
その他	1,621,847	1,895,671
流動資産合計	10,842,517	12,924,463
固定資産		
有形固定資産		
建物	22,112,391	24,161,110
減価償却累計額	△17,209,693	△18,289,605
建物（純額）	4,902,698	5,871,504
遊戯機械	65,072,939	68,914,488
減価償却累計額	△48,870,166	△51,223,705
遊戯機械（純額）	16,202,773	17,690,783
使用権資産	12,964,058	15,829,991
減価償却累計額	△9,444,973	△10,893,385
使用権資産（純額）	3,519,085	4,936,605
工具、器具及び備品	8,428,096	8,648,551
減価償却累計額	△6,522,394	△6,992,761
工具、器具及び備品（純額）	1,905,701	1,655,790
その他	145,662	233,838
減価償却累計額	△80,679	△90,924
その他（純額）	64,983	142,913
有形固定資産合計	26,595,241	30,297,597
無形固定資産		
のれん	135,035	113,358
ソフトウェア	1,299,155	1,262,921
その他	4,685	4,585
無形固定資産合計	1,438,876	1,380,866
投資その他の資産		
投資有価証券	5,323	5,323
敷金及び差入保証金	4,601,768	4,938,411
繰延税金資産	3,141,308	2,252,465
退職給付に係る資産	—	109,937
その他（純額）	292,271	393,998
投資その他の資産合計	8,040,671	7,700,135
固定資産合計	36,074,789	39,378,598
資産合計	46,917,307	52,303,062

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,432,864	1,862,629
短期借入金	19,542,050	24,200,300
1年内返済予定の長期借入金	1,307,274	811,519
1年内返済予定の長期割賦未払金	566,324	573,008
リース債務	2,018,731	2,261,264
未払金	1,034,245	1,260,655
未払費用	1,690,766	1,955,502
未払法人税等	658,746	1,029,901
賞与引当金	495,106	516,702
役員業績報酬引当金	32,128	71,476
設備関係支払手形	1,478,985	1,512,723
閉店損失引当金	190,757	269,483
災害損失引当金	—	15,290
その他	※2 1,906,550	※2 1,312,263
流動負債合計	32,354,531	37,652,722
固定負債		
長期借入金	1,025,655	268,260
長期割賦未払金	1,641,144	1,068,136
リース債務	2,504,862	3,479,579
退職給付に係る負債	115,567	72,937
資産除去債務	941,623	1,068,056
その他	195,569	152,316
固定負債合計	6,424,423	6,109,287
負債合計	38,778,955	43,762,010
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,806,987	1,810,821
資本剰余金	4,825,630	4,829,464
利益剰余金	1,902,889	3,019,873
自己株式	△4,176	△4,635
株主資本合計	8,531,331	9,655,524
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△568,301	△1,434,669
退職給付に係る調整累計額	△17,204	76,542
その他の包括利益累計額合計	△585,506	△1,358,126
新株予約権	31,437	37,947
非支配株主持分	161,089	205,707
純資産合計	8,138,352	8,541,051
負債純資産合計	46,917,307	52,303,062

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
売上高	※1 72,690,638	※1 81,758,939
売上原価	65,794,379	71,504,110
売上総利益	6,896,259	10,254,829
販売費及び一般管理費	※2 6,047,056	※2 6,669,293
営業利益	849,202	3,585,535
営業外収益		
受取利息	73,373	75,600
為替差益	934,017	1,173,768
受取保険金	51,050	39,640
固定資産売却益	※3 203	※3 18,649
預り金受入益	9,409	3,943
リース解約益	22,444	72,609
増値税還付金	40,419	64,437
その他	53,690	146,418
営業外収益合計	1,184,609	1,595,068
営業外費用		
支払利息	603,125	596,426
固定資産売却損	※4 17,338	※4 12,708
その他	95,267	82,961
営業外費用合計	715,731	692,096
経常利益	1,318,081	4,488,507
特別利益		
雇用調整助成金	※5 36,233	—
減損損失戻入益	※6 124,756	※6 111,808
閉店損失引当金戻入額	—	87,014
特別利益合計	160,990	198,823
特別損失		
閉店損失引当金繰入額	188,713	236,367
減損損失	※7 2,165,627	※7 1,078,304
店舗閉鎖損失	34,667	64,477
店舗休止損失	※8 1,124,762	—
災害による損失	※9 15,039	2,906
災害損失引当金繰入額	—	※10 15,290
特別損失合計	3,528,810	1,397,345
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△2,049,738	3,289,985
法人税、住民税及び事業税	496,820	1,044,192
法人税等調整額	800,719	897,816
法人税等合計	1,297,539	1,942,008
当期純利益又は当期純損失(△)	△3,347,278	1,347,977
非支配株主に帰属する当期純利益	29,316	33,315
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△3,376,595	1,314,661

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
当期純利益又は当期純損失 (△)	△3,347,278	1,347,977
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△189,939	△855,065
退職給付に係る調整額	31,940	93,747
その他の包括利益合計	※1 △157,998	※1 △761,318
包括利益	△3,505,276	586,658
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△3,548,464	542,002
非支配株主に係る包括利益	43,187	44,656

③ 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,806,987	4,825,630	5,477,154	△3,704	12,106,068
当期変動額					
剰余金の配当			△197,670		△197,670
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△3,376,595		△3,376,595
新株の発行					—
自己株式の取得				△472	△472
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	△3,574,265	△472	△3,574,737
当期末残高	1,806,987	4,825,630	1,902,889	△4,176	8,531,331

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	△364,491	△49,145	△413,636	31,437	117,901	11,841,771
当期変動額						
剰余金の配当						△197,670
親会社株主に帰属する当期純損失(△)						△3,376,595
新株の発行						—
自己株式の取得						△472
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△203,809	31,940	△171,869	—	43,187	△128,681
当期変動額合計	△203,809	31,940	△171,869	—	43,187	△3,703,419
当期末残高	△568,301	△17,204	△585,506	31,437	161,089	8,138,352

当連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,806,987	4,825,630	1,902,889	△4,176	8,531,331
当期変動額					
剰余金の配当			△197,677		△197,677
親会社株主に帰属する当期純利益			1,314,661		1,314,661
新株の発行	3,834	3,834			7,668
自己株式の取得				△459	△459
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	3,834	3,834	1,116,983	△459	1,124,192
当期末残高	1,810,821	4,829,464	3,019,873	△4,635	9,655,524

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	△568,301	△17,204	△585,506	31,437	161,089	8,138,352
当期変動額						
剰余金の配当						△197,677
親会社株主に帰属する当期純利益						1,314,661
新株の発行						7,668
自己株式の取得						△459
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△866,367	93,747	△772,620	6,509	44,617	△721,493
当期変動額合計	△866,367	93,747	△772,620	6,509	44,617	402,699
当期末残高	△1,434,669	76,542	△1,358,126	37,947	205,707	8,541,051

④ 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△2,049,738	3,289,985
減価償却費	10,063,569	10,043,067
固定資産除売却損益(△は益)	52,445	38,039
賞与引当金の増減額(△は減少)	224,773	7,707
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△69,519	△46,481
受取利息	△73,373	△75,600
支払利息	603,125	596,426
為替差損益(△は益)	△934,017	△1,173,768
受取保険金	△51,050	△39,640
リース解約益	△22,444	△72,609
雇用調整助成金	△36,233	—
減損損失戻入益	△124,756	△111,808
減損損失	2,165,627	1,078,304
災害による損失	15,039	2,906
売上債権の増減額(△は増加)	△13,486	112,813
売上預け金の増減額(△は増加)	△429,330	△223,572
棚卸資産の増減額(△は増加)	108,634	△214,753
仕入債務の増減額(△は減少)	159,512	420,429
その他	296,670	△330,299
小計	9,885,445	13,301,146
利息の受取額	37,858	38,331
利息の支払額	△614,747	△591,307
雇用調整助成金の受取額	36,233	—
法人税等の支払額	△287,031	△691,468
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,057,758	12,056,700
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,069,404	△9,590,592
有形固定資産の売却による収入	49,665	47,391
無形固定資産の取得による支出	△426,389	△573,345
長期前払費用の増加による支出	△86,451	△205,384
敷金及び保証金の差入による支出	△335,835	△567,899
敷金及び保証金の回収による収入	204,519	263,756
その他	△181,675	△99,045
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,845,571	△10,725,119
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	240,704	4,559,200
長期借入れによる収入	394,290	—
長期借入金の返済による支出	△2,211,156	△1,337,829
配当金の支払額	△197,670	△197,677
リース債務の返済による支出	△2,045,831	△2,554,271
割賦債務の返済による支出	△559,719	△566,324
その他	△472	△459
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,379,854	△97,363
現金及び現金同等物に係る換算差額	239,450	198,654
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	71,783	1,432,872
現金及び現金同等物の期首残高	5,986,843	6,058,627
現金及び現金同等物の期末残高	※1 6,058,627	※1 7,491,499

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結の対象としております。

連結子会社の数 7社

連結子会社の名称 永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司
AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD.
AEON Fantasy (Thailand) Co., Ltd.
AEON Fantasy Holdings (Thailand) Co., Ltd.
AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC.
PT. AEON FANTASY INDONESIA
AEON FANTASY VIETNAM CO., LTD.

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司及びAEON FANTASY VIETNAM CO., LTD.の決算日は、12月31日でありますが、連結決算日現在で本決算に準じた仮決算を行った財務諸表を基礎としております。

他の連結子会社の決算日は連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等 移動平均法による原価法

② 棚卸資産

商品 移動平均法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

貯蔵品 最終仕入原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産及び使用権資産を除く)

定額法

各資産別の耐用年数として下記の年数を採用しております。

建物 3～20年

遊戯機械 2～9年

工具、器具及び備品 2～8年

② 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年～10年)に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

④ 長期前払費用

定額法

⑤ 使用権資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、在外連結子会社については、国際財務報告基準に基づき財務諸表を作成しており、IFRS第16号「リース」を適用しております。これにより、リースの借手については、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

売上債権等の貸倒れによる損失に備え、貸倒懸念債権等特定の債権について個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

社員及びパートナ―社員(パートタイマー)に支給する賞与に備え、支給見込額のうち当連結会計年度に負担する金額を計上しております。

③ 役員業績報酬引当金

役員に対する業績報酬の支給に備えるため、支給見込額のうち、当連結会計年度に負担する金額を計上しております。

④ 閉店損失引当金

店舗の閉店に伴い発生する損失に備え、店舗閉店により合理的に見込まれる中途解約違約金等の閉店関連損失見込額を計上しております。

⑤ 災害損失引当金

災害により被災した資産の復旧等に要する支払に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループは日本、中国、アセアンにおいて、ファミリー向けアミューズメント施設及びプレイグラウンド施設等の運営を主な事業として展開しております。当該施設の運営における収入は、主に顧客が当該施設を利用した時点で履行義務を充足したと判断し、一時点で収益を認識しております。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、発生年度において一括費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

③ 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社については簡便法を用いております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

効果の発現する期間等(10年間)の定額法により償却を行っております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金及び随時引出可能な預金からなっております。

(重要な会計上の見積り)

会計上の見積りにより当連結会計年度に係る連結財務諸表にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

1. 固定資産の減損

(1) 当連結会計年度に係る連結財務諸表に計上した金額

(千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
有形固定資産	26,595,241	30,297,597
減損損失	2,165,627	1,078,304

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りに関する情報

当社グループにおける固定資産の減損の検討にあたっては、減損損失の認識及び使用価値の算定において、将来キャッシュ・フローの見積りを行っております。当該見積りは、経営者により承認された翌期予算の数値を基礎とし、現在の使用状況及び合理的な使用計画を考慮することとしております。当該数値は、経営者の判断を伴う主要な仮定として、各店舗の売上高及び売上総利益率の予測、各店舗の人件費及び経費の予測等を織り込んでおります。なお、中国の店舗においては、経済活動の不透明感や消費ニーズの変化などによる影響を勘案し、2025年2月期の売上高は段階的に回復すると見込んでおります。

これらの主要な見積り及び仮定は、事業戦略の変更や経済的な外部環境の変化等の影響を受ける可能性があり、将来キャッシュ・フローの見積りの見直しが必要となった場合、翌連結会計年度の連結財務諸表において追加の減損損失が発生する可能性があります。

2. 繰延税金資産の回収可能性

(1) 当連結会計年度に係る連結財務諸表に計上した金額

(千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
繰延税金資産	3,141,308	2,252,465

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りに関する情報

当社における繰延税金資産の計上にあたっては、将来の税負担額を軽減する効果を有するかどうかで回収可能性を判断しており、この判断の過程において、将来の一時差異等加減算前課税所得の見積り、一時差異の解消時期の見積り等の一定の見積りを行っております。これらの見積りについては、経営者により承認された翌期予算の数値を基礎とし、過去の実績、将来の経営環境等を考慮して算定しております。

これらの主要な見積り及び仮定は、事業戦略の変更や経済的な外部環境の変化等の影響を受ける可能性があり、繰延税金資産の一部又は全部の回収ができないと判断した場合は、翌連結会計年度の連結財務諸表において繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額が発生する可能性があります。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、連結財務諸表に与える影響はありません。

(未適用の会計基準等)

- ・「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)
- ・「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 2022年10月28日)
- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)

(1) 概要

その他の包括利益に対して課税される場合の法人税等の計上区分及びグループ法人税制が適用される場合の子会社株式等の売却に係る税効果の取り扱いを定めるもの。

(2) 適用予定日

2026年2月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

※1. 売上預け金

ショッピングセンターの店舗賃貸人等に預けている売上代金であります。

※2. 流動負債のその他のうち、契約負債の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
契約負債	702,508千円	447,257千円

(連結損益計算書関係)

※1. 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係) 1 顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

※2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
従業員給料及び賞与	2,120,514千円	2,429,378千円
賞与引当金繰入額	183,658	161,269
役員業績報酬引当金繰入額	32,128	71,476
退職給付費用	48,263	56,534

※3. 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
遊戯機械	194千円	18,482千円
器具備品	8	167

※4. 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
遊戯機械	16,758千円	12,316千円
器具備品	579	392

※5. 雇用調整助成金

前連結会計年度(自2022年3月1日 至2023年2月28日)

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例処置等によるものであります。

※6. 減損損失戻入益

前連結会計年度(自2022年3月1日 至2023年2月28日)

連結子会社であるAEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC. において実施した使用権資産に係る国際財務報告基準に基づく減損損失の戻入益であります。

当連結会計年度(自2023年3月1日 至2024年2月29日)

連結子会社であるAEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC. 及びPT. AEON FANTASY INDONESIAにおいて実施した建物等に係る国際財務報告基準に基づく減損損失の戻入益であります。

※7. 減損損失

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

① 減損損失を認識した資産グループの概要

用途	地域	店舗数	種類	金額(千円)
店舗	国内	42	建物等	63,141
			有形固定資産その他	66,636
			小計	129,777
	中国	74	建物等	303,503
			遊戯機械	660,774
			使用権資産	690,947
			有形固定資産その他	127,546
			ソフトウェア	111,215
			小計	1,893,988
	マレーシア	6	建物等	26,938
			遊戯機械	331
			有形固定資産その他	947
			小計	28,217
	フィリピン	2	建物等	3,811
			遊戯機械	3,875
			小計	7,686
	タイ	8	建物等	29,224
			遊戯機械	11,275
			有形固定資産その他	5,392
			小計	45,892
	インドネシア	3	建物等	19,985
			遊戯機械	21,259
			使用権資産	902
			有形固定資産その他	386
			小計	42,534
	ベトナム	1	建物等	9,514
			遊戯機械	1,652
小計			11,167	
店舗計	店舗計	136	店舗計	2,159,264
その他	フィリピン	-	遊戯機械	6,363
			小計	6,363
	その他計	-	その他計	6,363
合計				2,165,627

② 減損損失の認識に至った経緯

当連結会計年度において、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナスまたは継続してマイナスとなる見込みである資産グループ、閉店の意思決定を行った資産グループ、将来の使用が見込まれない遊休資産グループ、及び経営環境が著しく悪化する見込みである資産グループについて、国内の資産グループについては、資産グループから生み出される割引前将来キャッシュ・フローの見積りの総額が帳簿価額を下回った場合に、海外の資産グループについては割引後将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回った場合に減損損失を認識し、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

③ 減損損失の金額及び主な固定資産の種類ごとの当該金額の内訳

種類	金額(千円)
建物等	456,119
遊戯機械	705,532
使用権資産	691,849
有形固定資産その他	200,910
ソフトウェア	111,215
合計	2,165,627

④ 資産のグルーピングの方法

当社グループは事業用資産について、主として店舗を基本単位としてグルーピングしております。

⑤ 回収可能価額の算定方法

当社グループは、資産グループの回収可能価額は、主として使用価値により測定しております。使用価値については、将来キャッシュ・フローがマイナス又は使用期間が短期である資産グループについては、割引計算を行っておりません。これらを除く資産グループの使用価値については、見積もられた将来キャッシュ・フローを現在価値に割り引いて算定しております。その際に用いられる税引前の割引率は、貨幣の時間価値と将来キャッシュ・フローがその見積り値から乖離するリスクの両方を反映したものとして、負債資本コストと株主資本コストを加重平均した資本コストを使用しております。割引率については、主として12.22%～22.35%を使用しております。

当連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

① 減損損失を認識した資産グループの概要

用途	地域	店舗数	種類	金額(千円)
店舗	国内	13	建物等	15,489
			有形固定資産その他	8,186
			ソフトウェア	109,055
			小計	132,732
	中国	72	建物等	204,721
			遊戯機械	270,956
			使用権資産	230,385
			有形固定資産その他	70,232
			ソフトウェア	52,117
			小計	828,413
	マレーシア	5	建物等	16,724
			有形固定資産その他	507
			小計	17,231
	フィリピン	4	遊戯機械	8,181
			有形固定資産その他	582
			小計	8,763
	タイ	5	建物等	11,491
			遊戯機械	6,190
			有形固定資産その他	760
			ソフトウェア	5
			小計	18,447
	インドネシア	7	建物等	33,374
			遊戯機械	16,183
			使用権資産	2,488
有形固定資産その他			83	
小計			52,129	
店舗計	106	店舗計	1,057,718	
その他	フィリピン	—	遊戯機械	3,798
			ソフトウェア	16,787
			小計	20,585
	その他計	—	その他計	20,585
合計				1,078,304

② 減損損失の認識に至った経緯

当連結会計年度において、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナスまたは継続してマイナスとなる見込みである資産グループ、閉店の意思決定を行った資産グループ、将来の使用が見込まれない遊休資産グループについて、国内の資産グループについては、資産グループから生み出される割引前将来キャッシュ・フローの見積りの総額が帳簿価額を下回った場合に、海外の資産グループについては割引後将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回った場合に減損損失を認識し、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

③ 減損損失の金額及び主な固定資産の種類ごとの当該金額の内訳

種類	金額(千円)
建物等	281,801
遊戯機械	305,310
使用権資産	232,873
有形固定資産その他	80,352
ソフトウェア	177,966
合計	1,078,304

④ 資産のグルーピングの方法

当社グループは事業用資産について、主として店舗を基本単位としてグルーピングしております。

⑤ 回収可能価額の算定方法

当社グループは、資産グループの回収可能価額は、主として使用価値により測定しております。使用価値については、将来キャッシュ・フローがマイナス又は使用期間が短期である資産グループについては、割引計算を行っておりません。これらを除く資産グループの使用価値については、見積もられた将来キャッシュ・フローを現在価値に割り引いて算定しております。その際に用いられる税引前の割引率は、貨幣の時間価値と将来キャッシュ・フローがその見積り値から乖離するリスクの両方を反映したものとして、負債資本コストと株主資本コストを加重平均した資本コストを使用しております。割引率については、主として11.49%~19.06%を使用しております。

※8. 店舗休止損失

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の取組として、中国及びアセアン各国の政府や各自治体からの規制等により、当社グループにおいて店舗施設を臨時休業いたしました。この臨時休業期間中の固定費等を店舗休止損失として特別損失に計上しており、報告セグメントごとの主な内容は以下のとおりであります。

(単位：千円)

内訳	報告セグメント			
	国内	中国	アセアン	計
休止店舗の人件費	—	266,657	1,240	267,898
休止店舗の地代家賃	—	228,431	1,052	229,484
休止店舗の減価償却費	—	548,831	27,402	576,233
休止店舗の店舗維持費等	—	46,677	4,468	51,146
計	—	1,090,597	34,164	1,124,762

※9. 災害による損失

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

2022年3月に発生した福島県沖地震により被災した店舗の固定資産の撤去及び修繕費用等を災害による損失として特別損失に計上しております。

※10. 災害損失引当金繰入額

当連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

2024年1月に発生した能登半島地震により被災した店舗及び2024年2月に関東甲信で発生した豪雪により被災した店舗の固定資産修繕費等を災害損失引当金繰入額として特別損失に計上しております。

(連結包括利益計算書関係)

※ 1. その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2022年 3月 1日 至 2023年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2023年 3月 1日 至 2024年 2月 29日)
為替換算調整勘定：		
当期発生額	△189,939千円	△855,065千円
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	72,224	153,882
組替調整額	△23,910	△21,982
税効果調整前	48,313	131,899
税効果額	△16,373	△38,152
退職給付に係る調整額	31,940	93,747
その他の包括利益合計	△157,998	△761,318

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2022年 3月 1日 至 2023年 2月 28日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	19,768,825	—	—	19,768,825
合計	19,768,825	—	—	19,768,825
自己株式				
普通株式(注)	1,743	176	—	1,919
合計	1,743	176	—	1,919

(注) 普通株式の自己株式数の増加176株は、単元未満株式の買取によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結 会計年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプション としての新株予約 権	—	—	—	—	—	31,437
合計		—	—	—	—	—	31,437

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年 4月 8日 取締役会	普通株式	98,835	5	2022年 2月 28日	2022年 4月 27日
2022年 10月 5日 取締役会	普通株式	98,834	5	2022年 8月 31日	2022年 10月 31日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年4月12日 取締役会	普通株式	98,834	利益剰余金	5	2023年2月28日	2023年4月27日

当連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)1	19,768,825	2,900	—	19,771,725
合計	19,768,825	2,900	—	19,771,725
自己株式				
普通株式(注)2	1,919	133	—	2,052
合計	1,919	133	—	2,052

(注)1. 普通株式の発行済株式数の増加2,900株は、ストック・オプションの行使によるものであります。

2. 普通株式の自己株式数の増加133株は、単元未満株式の買取によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結 会計年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプション としての新株予約 権	—	—	—	—	—	37,947
合計		—	—	—	—	—	37,947

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年4月12日 取締役会	普通株式	98,834	5	2023年2月28日	2023年4月27日
2023年10月11日 取締役会	普通株式	98,843	5	2023年8月31日	2023年11月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2024年4月10日 取締役会	普通株式	98,848	利益剰余金	5	2024年2月29日	2024年4月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
現金及び預金勘定 預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	6,081,975千円 △23,348	7,516,588千円 △25,089
現金及び現金同等物	6,058,627	7,491,499

(リース取引関係)

(借手側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

有形固定資産

主として、遊戯施設における遊戯機械等(「遊戯機械」「器具及び備品」)であります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 ③リース資産」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
1年内	—	752,954
1年超	—	224,660
合計	—	977,615

3. 国際財務報告基準によるリース取引

① 使用権資産の内容

主として、オフィス及び店舗賃貸、遊戯施設における遊戯機械です。

② 使用権資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 ④使用権資産」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして一時的な余剰資金は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、必要に応じて短期的な運転資金や長期的な設備投資資金を主として銀行借入により調達する方針であります。なお、デリバティブ取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

売上預け金は、ショッピングセンターの店舗賃貸人に預けている売上代金であり、預け先の信用リスクに晒されております。

敷金及び差入保証金は、主に店舗の賃借に係るものであり、差入先の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金及び未払金は、主に1ヶ月以内の支払期日であります。また、未払法人税等は1年以内の支払期日であります。

借入金、リース債務及び割賦未払金は、運転資金及び設備投資に係る資金調達であります。このうち一部は、変動金利であるため、金利の変動リスクに晒されております。なお、デリバティブは利用しておりません。

設備関係支払手形は、支払期日にその支払いを実行できなくなる流動性リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、社内の管理規程に従い、売掛金、売上預け金、敷金及び差入保証金について、各担当部署が主な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や貸倒れリスクの軽減を図っております。

② 流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理本部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(2023年2月28日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 敷金及び差入保証金(1年以内返済予定の差入保証金を含む)	4,604,583	4,593,233	△11,349
資産計	4,604,583	4,593,233	△11,349
(2) 長期借入金(1年以内返済予定の長期借入金を含む)	2,332,930	2,294,824	△38,105
(3) リース債務(1年以内返済予定のリース債務を含む)	4,523,593	4,475,666	△47,926
(4) 長期割賦未払金(1年以内返済予定の長期割賦未払金を含む)	2,207,469	2,218,369	10,899
負債計	9,063,993	8,988,860	△75,132

(※1) 現金は注記を省略しており、預金、売掛金、売上預け金、買掛金、短期借入金、未払金、未払法人税等、設備関係支払手形は短期間で決済されるため、時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(※2) 市場価格のない株式等

(単位:千円)

区分	前連結会計年度 (2023年2月28日)
投資有価証券(非上場株式)	5,323

上記については、市場価格がないため「2. 金融商品の時価等に関する事項」には含めておりません。

当連結会計年度(2024年2月29日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 敷金及び差入保証金(1年以内返済予定の差入保証金を含む)	4,940,511	4,928,666	△11,844
資産計	4,940,511	4,928,666	△11,844
(2) 長期借入金(1年以内返済予定の長期借入金を含む)	1,079,780	1,062,152	△17,628
(3) リース債務(1年以内返済予定のリース債務を含む)	5,740,844	5,639,815	△101,028
(4) 長期割賦未払金(1年以内返済予定の長期割賦未払金を含む)	1,641,144	1,644,211	3,066
負債計	8,461,769	8,346,179	△115,590

(※1) 現金は注記を省略しており、預金、売掛金、売上預け金、買掛金、短期借入金、未払金、未払法人税等、設備関係支払手形は短期間で決済されるため、時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(※2) 市場価格のない株式等

(単位：千円)

区分	当連結会計年度 (2024年2月29日)
投資有価証券(非上場株式)	5,323

上記については、市場価格がないため「2. 金融商品の時価等に関する事項」には含めておりません。

(注) 1. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(2023年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	6,081,975	—	—	—
売掛金	248,227	—	—	—
売上預け金	734,050	—	—	—
敷金及び差入保証金(*)	2,814	—	—	—
合計	7,067,068	—	—	—

(*) 敷金及び差入保証金については、償還予定が確定しているもののみ記載しており、償還期日を明確に把握できないもの(4,601,768千円)については、償還予定額に含めておりません。

当連結会計年度(2024年2月29日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	7,516,588	—	—	—
売掛金	136,357	—	—	—
売上預け金	959,411	—	—	—
敷金及び差入保証金(*)	2,099	—	—	—
合計	8,614,457	—	—	—

(*) 敷金及び差入保証金については、償還予定が確定しているもののみ記載しており、償還期日を明確に把握できないもの(4,938,411千円)については、償還予定額に含めておりません。

2. 短期借入金、長期借入金、リース債務及び長期割賦未払金の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(2023年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	19,542,050	—	—	—	—	—
長期借入金	1,307,274	767,345	136,150	122,160	—	—
リース債務	2,018,731	1,172,587	700,314	416,245	173,216	42,499
長期割賦未払金	566,324	573,008	579,770	488,365	—	—

当連結会計年度(2024年2月29日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	24,200,300	—	—	—	—	—
長期借入金	811,519	141,660	126,600	—	—	—
リース債務	2,261,264	1,600,880	1,025,592	561,085	247,853	44,167
長期割賦未払金	573,008	579,770	488,365	—	—	—

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

該当事項はありません。

(2) 時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

前連結会計年度(2023年2月28日)

	時価 (千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
① 敷金及び差入保証金 (1年内返済予定の差入保証金を含む)	—	4,593,233	—	4,593,233
② 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	—	2,294,824	—	2,294,824
③ リース債務 (1年内返済予定のリース債務を含む)	—	4,475,666	—	4,475,666
④ 長期割賦未払金 (1年内返済予定の長期割賦未払金を含む)	—	2,218,369	—	2,218,369

当連結会計年度(2024年2月29日)

	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
① 敷金及び差入保証金(1年内返済予定の差入保証金を含む)	—	4,928,666	—	4,928,666
② 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)	—	1,062,152	—	1,062,152
③ リース債務(1年内返済予定のリース債務を含む)	—	5,639,815	—	5,639,815
④ 長期割賦未払金(1年内返済予定の長期割賦未払金を含む)	—	1,644,211	—	1,644,211

(注)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明。

① 敷金及び差入保証金

時価は、各契約ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標の利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

② 長期借入金、③ リース債務 ④ 長期割賦未払金

時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(2023年2月28日)

重要性がないため記載を省略しております。

当連結会計年度(2024年2月29日)

重要性がないため記載を省略しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、親会社であるイオン株式会社及び同社の主要国内関係会社で設立している確定給付型の企業年金基金制度並びに確定拠出年金制度及び退職金前払制度を設けております。また、一部の連結子会社においては、確定給付型の退職給付制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
退職給付債務の期首残高	1,314,897千円	1,236,784千円
勤務費用	25,520	36,410
利息費用	11,023	18,940
数理計算上の差異の発生額	△59,697	△9,449
退職給付の支払額	△59,737	△57,676
その他	4,777	6,790
退職給付債務の期末残高	1,236,784	1,231,799

(注) 一部の連結子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2022年 3月 1日 至 2023年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2023年 3月 1日 至 2024年 2月 29日)
年金資産の期首残高	1,114,908千円	1,121,217千円
期待運用収益	56,191	59,312
数理計算上の差異の発生額	△38,109	100,107
事業主からの拠出額	43,153	43,037
退職給付の支払額	△54,927	△54,875
年金資産の期末残高	1,121,217	1,268,799

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (自 2022年 3月 1日 至 2023年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2023年 3月 1日 至 2024年 2月 29日)
積立型制度の退職給付債務	1,171,381千円	1,158,861千円
年金資産	△1,121,217	△1,268,799
	50,164	△109,937
非積立型制度の退職給付債務	65,403	72,937
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	115,567	△37,000
退職給付に係る負債	115,567	72,937
退職給付に係る資産	—	△109,937
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	115,567	△37,000

(注) 簡便法を採用した制度を含めております。

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2022年 3月 1日 至 2023年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2023年 3月 1日 至 2024年 2月 29日)
勤務費用	25,520千円	36,410千円
利息費用	11,023	18,940
期待運用収益	△56,191	△59,312
数理計算上の差異の費用処理額	23,910	21,982
過去勤務費用の費用処理額	—	—
確定給付制度に係る退職給付費用	4,262	18,020

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「勤務費用」に含めております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年 3月 1日 至 2023年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2023年 3月 1日 至 2024年 2月 29日)
数理計算上の差異	△48,313千円	△131,899千円
合計	△48,313	△131,899

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
未認識数理計算上の差異	24,967千円	△105,575千円
合計	24,967	△105,575

(7) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
債券	39.6%	36.9%
株式	32.7	38.4
生命保険の一般勘定	9.3	7.7
その他	18.4	17.0
合計	100.0	100.0

(注) その他には、主として現金、オルタナティブ投資が含まれております。

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
割引率	1.40%	1.60%
長期期待運用収益率	5.04	5.29

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度59,766千円、当連結会計年度64,553千円であります。

4. 退職金前払制度

当社の退職金前払制度への要支給額は、前連結会計年度4,560千円、当連結会計年度4,840千円であります。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
販売費及び一般管理費	—	14,175

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	2016年 ストック・ オプション	2017年 ストック・ オプション	2018年 ストック・ オプション	2019年 ストック・ オプション	2020年 ストック・ オプション
付与対象者の区分 及び人数	当社取締役 8名	当社取締役 7名	当社取締役 8名	当社取締役 7名	当社取締役 8名
株式の種類別のス tock・オプション の数(注)	普通株式 6,500株	普通株式 11,100株	普通株式 6,600株	普通株式 3,000株	普通株式 4,400株
付与日	2016年5月10日	2017年5月10日	2018年5月10日	2019年5月10日	2020年5月10日
権利確定条件	権利確定条件は 付されておりま せん。	権利確定条件は 付されておりま せん。	権利確定条件は 付されておりま せん。	権利確定条件は 付されておりま せん。	権利確定条件は 付されておりま せん。
対象勤務期間	対象勤務期間の 定めはありません。 。	対象勤務期間の 定めはありません。 。	対象勤務期間の 定めはありません。 。	対象勤務期間の 定めはありません。 。	対象勤務期間の 定めはありません。 。
権利行使期間	自 2016年6月10日 至 2031年6月9日	自 2017年6月10日 至 2032年6月9日	自 2018年6月10日 至 2033年6月9日	自 2019年6月10日 至 2034年6月9日	自 2020年6月10日 至 2035年6月9日

	2023年 ストック・ オプション
付与対象者の区分 及び人数	当社取締役 5名
株式の種類別のス tock・オプション の数(注)	普通株式 4,500株
付与日	2023年5月10日
権利確定条件	権利確定条件は 付されておりま せん。
対象勤務期間	対象勤務期間の 定めはありません。 。
権利行使期間	自 2023年6月10日 至 2038年6月9日

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(2024年2月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

① ストック・オプションの数

	2016年 ストック・ オプション	2017年 ストック・ オプション	2018年 ストック・ オプション	2019年 ストック・ オプション	2020年 ストック・ オプション
権利確定前(株)					
前連結会計年度末	—	—	—	—	—
付与	—	—	—	—	—
失効	—	—	—	—	—
権利確定	—	—	—	—	—
未確定残	—	—	—	—	—
権利確定後(株)		—	—	—	—
前連結会計年度末	600	2,500	2,000	2,400	3,600
権利確定	—	—	—	—	—
権利行使	600	1,100	—	—	400
失効	—	—	—	—	—
未行使残	—	1,400	2,000	2,400	3,200

	2023年 ストック・ オプション
権利確定前(株)	
前連結会計年度末	—
付与	4,500
失効	—
権利確定	4,500
未確定残	—
権利確定後(株)	
前連結会計年度末	—
権利確定	4,500
権利行使	800
失効	—
未行使残	3,700

② 単価情報

	2016年 ストック・ オプション	2017年 ストック・ オプション	2018年 ストック・ オプション	2019年 ストック・ オプション	2020年 ストック・ オプション
権利行使価格(円)	1	1	1	1	1
行使時平均株価 (円)	2,599	3,150	—	—	2,495
付与日における公 正な評価単価(円)	2,359	2,796	6,049	2,102	1,636

	2023年 ストック・ オプション
権利行使価格(円)	1
行使時平均株価 (円)	2,951
付与日における公 正な評価単価(円)	3,150

3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与された2023年ストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりであります。

(1) 使用した評価技法 ブラック・ショールズ式

(2) 主な基礎数値及び見積方法

	2023年ストック・オプション
株価変動性(注) 1	46.78%
予想残存期間(注) 2	7.5年
予想配当(注) 3	0.31%
無リスク利率(注) 4	0.26%

(注) 1. 2015年11月4日から2023年5月10日の株価実績に基づき算定しております。

2. 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積っております。

3. 2023年2月期の配当実績に基づき算定しております。

4. 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りに基づき算定しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
繰延税金資産		
減価償却超過額	1,445,996千円	1,573,007千円
未払事業税	73,754	96,252
一括償却資産	8,229	7,339
賞与引当金	109,647	108,759
資産除去債務	242,419	265,700
未払費用	26,918	34,690
未払給与	9,160	10,522
リース債務	1,090,983	1,376,777
投資有価証券評価損	54,447	54,447
退職給付に係る負債	24,616	15,268
税務上の繰越欠損金(注)2	5,401,957	5,063,482
その他	198,954	306,564
繰延税金資産小計	8,687,085	8,912,812
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2	△3,785,150	△4,440,005
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△862,485	△906,268
評価性引当額小計(注)1	△4,647,636	△5,346,274
繰延税金資産合計	4,039,449	3,566,537
繰延税金負債との相殺額	△898,141	△1,314,072
繰延税金資産の純額	3,141,308	2,252,465
繰延税金負債		
在外連結子会社の減価償却費	△40,742	△39,199
使用権資産	△826,572	△1,182,732
退職給付に係る資産	—	△33,531
その他	△40,222	△58,609
繰延税金負債合計	△907,537	△1,314,072
繰延税金資産との相殺額	898,141	1,314,072
繰延税金負債の純額	△9,396	—

(注) 1. 評価性引当額が698,638千円増加しております。この増加の主な内容は、一部の連結子会社において税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額を追加的に認識したことに伴うものであります。

2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額
前連結会計年度(2023年2月28日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(※1)	264,662	727,670	789,800	861,985	1,229,174	1,528,663	5,401,957
評価性引当額	△264,662	△727,670	△724,091	△839,551	△1,229,174	—	△3,785,150
繰延税金資産(※2)	—	—	65,709	22,433	—	1,528,663	1,616,806

(※1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(※2) 税務上の繰越欠損金については、将来の課税所得の見込みにより、回収可能と判断した部分については評価性引当額を認識しておりません。

当連結会計年度（2024年2月29日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(※1)	783,308	681,720	897,567	1,322,939	980,829	397,117	5,063,482
評価性引当額	△783,308	△597,568	△755,360	△1,322,939	△980,829	—	△4,440,005
繰延税金資産(※2)	—	84,152	142,206	—	—	397,117	623,476

(※1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(※2) 税務上の繰越欠損金については、将来の課税所得の見込みにより、回収可能と判断した部分については評価性引当額を認識しておりません。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
法定実効税率	—%	30.5%
(調整)		
交際費等の永久差異	—	3.0
住民税均等割	—	6.3
評価性引当額	—	11.4
在外子会社の適用税率差異	—	4.7
税額控除	—	△4.9
繰越欠損金の期限切れ	—	8.3
その他	—	△0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	—	59.0

(注) 前連結会計年度は、税金等調整前当期純損失であるため記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 資産除去債務の概要

当社は、主として、営業用店舗等の不動産賃貸借契約に付されている建物原状回復義務に関して資産除去債務を計上しております。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を主として取得から3年から20年と見積り、割引率は主として0.0%から9.7%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
期首残高	973,940千円	1,032,004千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	44,634	125,522
時の経過による調整額	2,682	4,880
資産除去債務の履行による減少額	△101,947	△65,762
その他の増減額(△は減少)	112,694	23,705
期末残高	1,032,004	1,120,350

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

(単位：千円)

	報告セグメント			
	国内	中国	アセアン	合計
遊戯機械売上高	48,341,327	4,297,851	8,043,877	60,683,056
商品売上高	9,948,821	560,312	947,891	11,457,025
委託売上高	89,913	—	43,160	133,074
その他	417,482	—	—	417,482
顧客との契約から生じる収益	58,797,544	4,858,163	9,034,929	72,690,638
外部顧客への売上高	58,797,544	4,858,163	9,034,929	72,690,638

当連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

(単位：千円)

	報告セグメント			
	国内	中国	アセアン	合計
遊戯機械売上高	52,967,864	5,463,637	9,798,106	68,229,607
商品売上高	10,427,653	1,063,714	1,185,155	12,676,523
委託売上高	105,078	—	23,250	128,329
その他	724,478	—	—	724,478
顧客との契約から生じる収益	64,225,075	6,527,351	11,006,512	81,758,939
外部顧客への売上高	64,225,075	6,527,351	11,006,512	81,758,939

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計方針に関する事項 (4) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

(1) 契約負債の残高等

契約負債の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	当連結会計年度	
	期首	期末
契約負債	312,793	702,508

連結貸借対照表上、契約負債は「流動負債のその他」に計上しております。契約負債は、主に顧客からの前受金に関するものや当社グループが付与したポイントのうち、期末時点において履行義務を充足していない残高であります。当連結会計年度に認識した収益のうち、当連結会計年度期首の契約負債に含まれていた金額は148,327千円であります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	当連結会計年度
1年以内	418,811
1年超2年以内	283,697
合計	702,508

当連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

(1) 契約負債の残高等

契約負債の内訳は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	当連結会計年度	
	期首	期末
契約負債	702,508	447,257

連結貸借対照表上、契約負債は「流動負債のその他」に計上しております。契約負債は、主に顧客からの前受金に関するものや当社グループが付与したポイントのうち、期末時点において履行義務を充足していない残高であります。当連結会計年度に認識した収益のうち、当連結会計年度期首の契約負債に含まれていた金額は613,321千円であります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	当連結会計年度
1年以内	426,539
1年超2年以内	20,717
合計	447,257

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、ファミリー向けアミューズメント施設及びプレイグラウンド施設等の運営を主な事業としており、「国内」、「中国」及び「アセアン」の3つを報告セグメントとしております。

「国内」は当社が事業を営んでおり、「中国」は、永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司が中国において、「アセアン」は、AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD. がマレーシアにおいて、AEON Fantasy(Thailand) Co., Ltd. がタイにおいて、AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC. がフィリピンにおいて、PT. AEON FANTASY INDONESIAがインドネシアにおいて、AEON FANTASY VIETNAM CO., LTD. がベトナムにおいてファミリー向けアミューズメント施設及びプレイグラウンド施設等の運営事業をそれぞれ営んでおります。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
	国内	中国	アセアン	計		
売上高						
外部顧客に対する売上高	58,797,544	4,858,163	9,034,929	72,690,638	—	72,690,638
セグメント間の内部売上高	27,057	—	—	27,057	△27,057	—
計	58,824,601	4,858,163	9,034,929	72,717,695	△27,057	72,690,638
セグメント利益又は損失 (△)	2,402,003	△2,782,559	1,220,307	839,751	9,451	849,202
セグメント資産	29,720,075	7,365,785	10,149,723	47,235,584	△318,276	46,917,307
その他の項目						
減価償却費	4,969,978	2,760,437	2,304,044	10,034,459	—	10,034,459
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	3,893,344	837,404	1,159,193	5,889,942	—	5,889,942

(注) 調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

当連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
	国内	中国	アセアン	計		
売上高						
外部顧客に対する売上高	64,225,075	6,527,351	11,006,512	81,758,939	—	81,758,939
セグメント間の内部売上高	250,882	—	—	250,882	△250,882	—
計	64,475,957	6,527,351	11,006,512	82,009,822	△250,882	81,758,939
セグメント利益又は損失 (△)	4,570,694	△2,343,012	1,358,594	3,586,276	△740	3,585,535
セグメント資産	32,606,399	6,590,963	13,937,078	53,134,442	△831,379	52,303,062
その他の項目						
減価償却費	5,325,889	2,085,411	2,601,124	10,012,425	—	10,012,425
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	7,800,105	645,994	3,323,364	11,769,464	—	11,769,464

(注) 調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	中国	その他	合計
58,797,544	4,858,163	9,034,929	72,690,638

(注) 売上高は店舗の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	中国	その他	合計
15,785,677	4,720,730	6,088,833	26,595,241

(注) 「その他」に属する国は、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、ベトナムであります。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	中国	その他	合計
64,225,075	6,527,351	11,006,512	81,758,939

(注) 売上高は店舗の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	中国	その他	合計
18,055,251	3,669,260	8,573,085	30,297,597

(注) 「その他」に属する国は、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、ベトナムであります。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

(単位：千円)

	国内	中国	アセアン	計	調整額	合計
減損損失	129,777	1,893,988	141,861	2,165,627	—	2,165,627

当連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

(単位：千円)

	国内	中国	アセアン	計	調整額	合計
減損損失	132,732	828,413	117,158	1,078,304	—	1,078,304

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

(単位：千円)

	国内	中国	アセアン	計	調整額	合計
当期償却額	—	—	29,109	29,109	—	29,109
当期末残高	—	—	135,035	135,035	—	135,035

当連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

(単位：千円)

	国内	中国	アセアン	計	調整額	合計
当期償却額	—	—	30,641	30,641	—	30,641
当期末残高	—	—	113,358	113,358	—	113,358

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等

前連結会計年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
兄弟 会社	イオンリテ ール株式会社	千葉県 千葉市 美浜区	100,000	総合小売業	—	店舗の賃借	店舗等の家賃 及び共益費	5,880,367	未払費用	35,947
							売上代金の 一時預け	—	売上預け金	184,687
							敷金及び 保証金の差入	31,183	敷金及び 差入保証金	723,169
兄弟 会社	イオン九州 株式会社	福岡県 福岡市 博多区	4,915,000	総合小売業	—	店舗の賃借	敷金及び 保証金の差入	6,400	敷金及び 差入保証金	477,766
兄弟 会社	イオン北海道 株式会社	北海道 札幌市 白石区	6,100,435	総合小売業	—	店舗の賃借	敷金及び 保証金の差入	—	敷金及び 差入保証金	167,606

(注) 上記取引は、一般的取引と同様、市場価格に基づき交渉のうえ決定しております。

当連結会計年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
兄弟 会社	イオンリテ ール株式会社	千葉県 千葉市 美浜区	100,000	総合小売業	—	店舗の賃借	店舗等の家賃 及び共益費	6,193,748	未払費用	34,653
							売上代金の 一時預け	—	売上預け金	309,169
							敷金及び 保証金の回収	2,084	敷金及び 差入保証金	721,084
兄弟 会社	イオン九州 株式会社	福岡県 福岡市 博多区	4,915,000	総合小売業	—	店舗の賃借	敷金及び 保証金の差入	4,640	敷金及び 差入保証金	482,406
兄弟 会社	イオン北海道 株式会社	北海道 札幌市 白石区	6,100,435	総合小売業	—	店舗の賃借	敷金及び 保証金の差入	1,000	敷金及び 差入保証金	168,606

(注) 上記取引は、一般的取引と同様、市場価格に基づき交渉のうえ決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

イオン株式会社(株式会社東京証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
1株当たり純資産額	401.98円	419.70円
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額(△)	△170.82円	66.50円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	－円	66.46円

(注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額(△)		
親会社株主に帰属する当期純利益金額又は 親会社株主に帰属する当期純損失金額(△)(千円)	△3,376,595	1,314,661
普通株主に帰属しない金額(千円)	－	－
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額又は 親会社株主に帰属する当期純損失金額(△)(千円)	△3,376,595	1,314,661
期中平均株式数(株)	19,766,962	19,768,057
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整金額(千円)	－	－
普通株式増加数(株)	－	13,735
(うち新株予約権(株))	－	(13,735)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期 純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要		－

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	19,542,050	24,200,300	0.94	—
1年内返済予定の長期借入金	1,307,274	811,519	4.00	—
1年内返済予定のリース債務	2,018,731	2,261,264	5.20	—
1年内返済予定の長期割賦未払金	566,324	573,008	1.18	—
長期借入金(1年内返済予定のものを除く。)	1,025,655	268,260	4.45	2025年～2026年
リース債務(1年内返済予定のものを除く。)	2,504,862	3,479,579	5.20	2025年～2031年
長期割賦未払金(1年内返済予定のものを除く。)	1,641,144	1,068,136	1.18	2025年～2026年
合計	28,606,043	32,662,069	—	—

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金、リース債務、長期割賦未払金(1年内返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	141,660	126,600	—	—
リース債務	1,600,880	1,025,592	561,085	247,853
長期割賦未払金	579,770	488,365	—	—

【資産除去債務明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
賃貸借契約に基づく 原状回復費用	1,032,004	154,108	65,762	1,120,350

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	18,804,748	40,840,898	59,486,739	81,758,939
税金等調整前四半期(当期)純利益金額 (千円)	28,658	2,178,698	1,684,266	3,289,985
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額 (△) (千円)	△215,086	1,181,091	341,981	1,314,661
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 (△) (円)	△10.88	59.75	17.30	66.50

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△) (円)	△10.88	70.63	△42.45	49.20

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年2月28日)	当事業年度 (2024年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,627,520	3,762,580
売掛金	※3 236,666	※3 136,440
売上預け金	※2 666,696	※2 929,486
商品	301,849	278,085
貯蔵品	1,156,798	1,413,958
関係会社短期貸付金	10,433,250	14,242,400
その他	※1, ※3 890,132	※1, ※3 2,305,139
流動資産合計	17,312,914	23,068,091
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,722,617	2,209,338
遊戯機械	12,817,652	14,650,251
工具、器具及び備品	1,181,187	1,059,929
その他	64,218	135,732
有形固定資産合計	15,785,677	18,055,251
無形固定資産		
ソフトウェア	934,296	975,677
その他	3,667	3,440
無形固定資産合計	937,963	979,117
投資その他の資産		
投資有価証券	5,323	5,323
関係会社株式	444,509	811,967
関係会社出資金	0	0
繰延税金資産	2,663,020	1,789,870
敷金及び差入保証金	3,346,111	3,491,527
関係会社長期貸付金	3,491,142	3,319,750
前払年金費用	—	14,746
その他	158,705	176,971
投資等損失引当金	△219,534	△235,181
投資その他の資産合計	9,889,278	9,374,975
固定資産合計	26,612,919	28,409,344
資産合計	43,925,833	51,477,436

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年2月28日)	当事業年度 (2024年2月29日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,283,918	1,651,736
短期借入金	18,200,000	22,800,000
1年内返済予定の長期割賦未払金	566,324	573,008
未払法人税等	640,889	1,000,839
賞与引当金	310,770	292,644
役員業績報酬引当金	32,128	71,476
設備関係支払手形	1,478,985	1,512,723
閉店損失引当金	12,179	26,063
災害損失引当金	—	15,290
その他	※1 2,685,678	※1 2,376,567
流動負債合計	25,210,874	30,320,351
固定負債		
長期割賦未払金	1,641,144	1,068,136
退職給付引当金	20,264	—
関係会社事業損失引当金	8,756,732	12,283,025
資産除去債務	501,426	563,391
その他	58,569	57,923
固定負債合計	10,978,138	13,972,476
負債合計	36,189,013	44,292,827
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,806,987	1,810,821
資本剰余金		
資本準備金	4,792,935	4,796,769
その他資本剰余金	32,695	32,695
資本剰余金合計	4,825,630	4,829,464
利益剰余金		
利益準備金	212,500	212,500
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	864,441	298,510
利益剰余金合計	1,076,941	511,010
自己株式	△4,176	△4,635
株主資本合計	7,705,383	7,146,660
新株予約権	31,437	37,947
純資産合計	7,736,820	7,184,608
負債純資産合計	43,925,833	51,477,436

② 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
売上高		
遊戯施設売上高	58,725,404	64,098,240
その他の売上高	99,197	377,717
売上高合計	※1 58,824,601	※1 64,475,957
売上原価		
遊戯施設売上原価	52,455,843	55,506,756
その他売上原価	324	686
売上原価合計	52,456,167	55,507,442
売上総利益	6,368,433	8,968,515
販売費及び一般管理費	※1,※2 3,966,430	※1,※2 4,397,820
営業利益	2,402,003	4,570,694
営業外収益		
受取利息	540,191	738,284
為替差益	857,526	964,679
受取保険金	24,217	36,954
固定資産売却益	※3 191	※3 18,060
その他	46,450	124,690
営業外収益合計	※1 1,468,577	※1 1,882,670
営業外費用		
支払利息	189,653	196,950
固定資産売却損	※4 9,936	※4 6,989
その他	1,908	6,820
営業外費用合計	201,499	210,759
経常利益	3,669,081	6,242,605
特別利益		
投資等損失引当金戻入額	25,605	—
関係会社事業損失引当金戻入額	594,101	169,784
閉店損失引当金戻入額	—	1,335
特別利益合計	619,706	171,119
特別損失		
閉店損失引当金繰入額	12,179	26,063
減損損失	129,777	132,732
店舗閉鎖損失	4,432	13,611
投資等損失引当金繰入額	—	15,646
関係会社事業損失引当金繰入額	6,832,572	4,657,991
災害による損失	※5 15,039	2,906
災害損失引当金繰入額	—	※6 15,290
特別損失合計	6,994,001	4,864,243
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	△2,705,212	1,549,481
法人税、住民税及び事業税	481,028	1,044,584
法人税等調整額	752,632	873,150
法人税等合計	1,233,661	1,917,734
当期純損失(△)	△3,938,874	△368,253

遊戯施設売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)			当事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)		
		金額(千円)		構成比 (%)	金額(千円)		構成比 (%)
I 景品費			8,485,055	16.2		9,051,575	16.3
II 遊戯機械賃借料			1,919,184	3.7		1,868,531	3.4
III 商品原価			7,274,035	13.9		7,540,972	13.6
IV 労務費			10,909,854	20.8		11,888,077	21.4
V 経費							
1. 家賃及び共益費		12,271,587			13,318,700		
2. 減価償却費		4,731,467			4,982,126		
3. その他		6,864,658	23,867,714	45.5	6,856,771	25,157,598	45.3
遊戯施設売上原価計			52,455,843	100.0		55,506,756	100.0

③ 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金	
					繰越利益 剰余金	その他利益 剰余金合計	
当期首残高	1,806,987	4,792,935	32,695	4,825,630	212,500	5,000,985	5,000,985
当期変動額							
剰余金の配当						△197,670	△197,670
当期純損失(△)						△3,938,874	△3,938,874
新株の発行							
自己株式の取得							
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	—	—	—	—	△4,136,544	△4,136,544
当期末残高	1,806,987	4,792,935	32,695	4,825,630	212,500	864,441	864,441

	株主資本			新株予約権	純資産合計
	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
	利益剰余金 合計				
当期首残高	5,213,485	△3,704	11,842,399	31,437	11,873,837
当期変動額					
剰余金の配当	△197,670		△197,670		△197,670
当期純損失(△)	△3,938,874		△3,938,874		△3,938,874
新株の発行			—		—
自己株式の取得		△472	△472		△472
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)				—	—
当期変動額合計	△4,136,544	△472	△4,137,016	—	△4,137,016
当期末残高	1,076,941	△4,176	7,705,383	31,437	7,736,820

当事業年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金	
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計		繰越利益 剰余金	その他利益 剰余金合計
当期首残高	1,806,987	4,792,935	32,695	4,825,630	212,500	864,441	864,441
当期変動額							
剰余金の配当						△197,677	△197,677
当期純損失(△)						△368,253	△368,253
新株の発行	3,834	3,834		3,834			
自己株式の取得							
株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額)							
当期変動額合計	3,834	3,834	—	3,834	—	△565,930	△565,930
当期末残高	1,810,821	4,796,769	32,695	4,829,464	212,500	298,510	298,510

	株主資本			新株予約権	純資産合計
	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
	利益剰余金 合計				
当期首残高	1,076,941	△4,176	7,705,383	31,437	7,736,820
当期変動額					
剰余金の配当	△197,677		△197,677		△197,677
当期純損失(△)	△368,253		△368,253		△368,253
新株の発行			7,668		7,668
自己株式の取得		△459	△459		△459
株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額)				6,509	6,509
当期変動額合計	△565,930	△459	△558,722	6,509	△552,212
当期末残高	511,010	△4,635	7,146,660	37,947	7,184,608

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 関係会社株式

移動平均法による原価法

(2) 関係会社出資金

移動平均法による原価法

(3) その他有価証券

市場価格のない株式等 移動平均法による原価法

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品

移動平均法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 貯蔵品

最終仕入原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法

各資産別の耐用年数として下記の年数を採用しております。

建物 3～20年

遊戯機械 2～9年

工具、器具及び備品 2～8年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

定額法

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒れによる損失に備え、貸倒懸念債権等特定の債権について個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

社員及びパートナー社員(パートタイマー)に支給する賞与に備え、支給見込額のうち当事業年度に負担する金額を計上しております。

(3) 役員業績報酬引当金

役員に対する業績報酬の支給に備えるため、支給見込額のうち、当事業年度に負担する金額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備え、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、発生年度において一括費用処理しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(5) 閉店損失引当金

店舗の閉店に伴い発生する損失に備え、店舗閉店により合理的に見込まれる中途解約違約金等の閉店関連損失見込額を計上しております。

(6) 投資等損失引当金

関係会社に対する投資等に伴う損失に備えるため、当該会社の財政状態等を勘案し、必要と認められる額を計上しております。

(7) 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業の損失に備えるために、関係会社に対する投資額を超えて当社が負担することとなる損失見込額を計上しております。

(8) 災害損失引当金

災害により被災した資産の復旧等に要する支払に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上しております。

5. 収益及び費用の計上基準

当社はファミリー向けアミューズメント施設及びプレイランド施設等の運営を主な事業として展開しております。当該施設の運営における収入は、主に顧客が当該施設を利用した時点で履行義務を充足したと判断し、一時点で収益を認識しております。

6. 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として認識しております。

(重要な会計上の見積り)

会計上の見積りにより当事業年度に係る財務諸表にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

(1) 固定資産の減損

① 当事業年度に係る財務諸表に計上した金額

	(千円)	
	前事業年度	当事業年度
有形固定資産	15,785,677	18,055,251
減損損失	129,777	132,732

② 識別した項目に係る重要な会計上の見積りに関する情報

当社における固定資産の減損の検討にあたっては、減損損失の認識及び使用価値の算定において、将来キャッシュ・フローの見積りを行っております。当該見積りは、経営者により承認された翌期予算の数値を基礎とし、現在の使用状況及び合理的な使用計画を考慮することとしております。当該数値は、経営者の判断を伴う主要な仮定として、各店舗の売上高及び売上総利益率の予測、各店舗の人件費及び経費の予測等を織り込んでおります。

これらの主要な見積り及び仮定は、事業戦略の変更や経済的な外部環境の変化等の影響を受ける可能性があり、将来キャッシュ・フローの見積りの見直しが必要となった場合、翌事業年度の財務諸表において追加の減損損失が発生する可能性があります。

(2) 繰延税金資産の回収可能性

① 当事業年度に係る財務諸表に計上した金額

	(千円)	
	前事業年度	当事業年度
繰延税金資産	2,663,020	1,789,870

② 識別した項目に係る重要な会計上の見積りに関する情報

連結財務諸表「注記事項（重要な会計上の見積り）2. 繰延税金資産の回収可能性」に記載した内容と同一であります。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、財務諸表に与える影響はありません。

(貸借対照表関係)

※1. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (2023年2月28日)	当事業年度 (2024年2月29日)
短期金銭債権	383,592千円	1,616,086千円
短期金銭債務	50,029	68,653

※2. 売上預け金

ショッピングセンターの店舗賃貸人等に預けている売上代金であります。

※3. 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前事業年度 (2023年2月28日)	当事業年度 (2024年2月29日)
売掛金	9,730千円	493千円
流動資産その他	7,878	4,142

4. 保証債務

子会社の金融機関からの借入金に対して、次のとおり債務保証をしております。

	前事業年度 (2023年2月28日)	当事業年度 (2024年2月29日)
AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD	899,756千円	628,474千円
AEON Fantasy (Thailand) Co., Ltd.	342,190	244,350
AEON FANTASY VIETNAM CO., LTD.	92,439	—

(注) 上記の金額は、債務保証の総額から関係会社事業損失引当金設定額を控除した残額となっております。

(損益計算書関係)

※1. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
営業取引による取引高		
売上高	26,749千円	250,949千円
販売費及び一般管理費	95,398	139,683
営業取引以外の取引による取引高		
営業外収益	544,962	747,237

※2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。なお、全額が一般管理費に属するものであります。

	前事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
従業員給料及び賞与	1,251,080千円	1,413,879千円
賞与引当金繰入額	136,453	113,598
役員業績報酬引当金繰入額	32,128	71,476
退職給付費用	46,016	47,902
法定福利厚生費	370,385	398,721
減価償却費	240,789	345,157

※3. 有形固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
遊戯機械	191千円	18,060千円

※4. 有形固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)	当事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)
遊戯機械	9,936千円	6,989千円

※5. 災害による損失

前事業年度(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)

2022年3月に発生した福島県沖地震により被災した店舗の固定資産の撤去及び修繕費用等を災害による損失として特別損失に計上しております。

※6. 災害損失引当金繰入額

当事業年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

2024年1月に発生した能登半島地震により被災した店舗及び2024年2月に関東甲信で発生した豪雪により被災した店舗の固定資産修繕費等を災害損失引当金繰入額として特別損失に計上しております。

(有価証券関係)

1. 子会社株式

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は811,967千円、前事業年度の貸借対照表計上額は444,509千円)は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. 減損処理を行った有価証券

当事業年度において、子会社株式について961,914千円の減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、株式の実質価額の回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2023年2月28日)	当事業年度 (2024年2月29日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金	1,289,494千円	323,423千円
減価償却超過額	937,023	993,638
未払事業税	73,754	96,252
一括償却資産	8,229	7,339
賞与引当金	94,784	89,256
資産除去債務	152,935	171,834
未払費用	64,040	88,794
未払給与	9,160	10,522
投資等損失引当金	66,957	71,730
関係会社事業損失引当金	2,676,174	3,747,736
関係会社株式評価損	928,193	1,221,577
関係会社出資金評価損	2,412,550	2,412,550
投資有価証券評価損	54,447	54,447
その他	72,753	62,965
繰延税金資産小計	8,840,498	9,352,069
評価性引当額	△6,146,117	△7,515,835
繰延税金資産合計	2,694,381	1,836,233
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	△31,360	△41,865
その他	-	△4,497
繰延税金負債合計	△31,360	△46,362
繰延税金資産の純額	2,663,020	1,789,870

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2023年2月28日)	当事業年度 (2024年2月29日)
法定実効税率	—%	30.5%
(調整)		
交際費等の永久差異	—	2.1
住民税均等割	—	13.3
評価性引当額	—	88.4
税額控除	—	△10.5
その他	—	△0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	—	123.8

(注) 前事業年度は、税引前当期純損失であるため記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	1,722,617	1,118,043	18,341 (15,489)	612,981	2,209,338	9,016,329
	遊戯機械	12,817,652	5,770,123	27,012 (-)	3,910,513	14,650,251	40,164,634
	工具、器具及び備品	1,181,187	305,242	8,775 (8,184)	417,724	1,059,929	5,600,274
	その他	64,218	78,632	- (-)	7,118	135,732	62,774
	計	15,785,677	7,272,041	54,129 (23,674)	4,948,337	18,055,251	54,844,012
無形固定資産	ソフトウェア	934,296	527,746	109,355 (109,055)	377,009	975,677	-
	その他	3,667	317	1 (1)	542	3,440	-
	計	937,963	528,063	109,357 (109,057)	377,551	979,117	-

(注) 1. 当期増加額の主な内訳は次のとおりであります。

	(新規出店)	(既存店の改装及び遊戯機械の入替等)
建物	611,316千円	506,727千円
遊戯機械	434,322	5,335,801
工具、器具及び備品	131,854	173,388

2. 当期減少額の()書は、内書きで減損損失による減少額であります。
3. 当期減少額は、遊戯機械の改廃及び閉店等に伴う除売却によるものです。
4. ソフトウェアの当期増加額は、よくばりポイント付与システム等の導入によるものであります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	17,609	4,635	17,609	4,635
賞与引当金	310,770	292,644	310,770	292,644
役員業績報酬引当金	32,128	71,476	32,128	71,476
閉店損失引当金	12,179	26,063	12,179	26,063
投資等損失引当金	219,534	15,646	-	235,181
関係会社事業損失引当金	8,756,732	4,657,991	1,131,698	12,283,025
災害損失引当金	-	15,290	-	15,290

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	5月中
基準日	2月末日
剰余金の配当の基準日	2月末日、8月末日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料は無料とする。
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載URL https://www.fantasy.co.jp/
株主に対する特典	<p>毎年2月末日及び8月末日現在で株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録の以下の株主に対し、特典を実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 100株以上200株未満所有の株主 <ul style="list-style-type: none"> ・2月末日 株主さまご優待券2,000円分及び魚沼産こしひかり 3kg ・8月末日 株主さまご優待券2,000円分 200株以上300株未満所有の株主 <ul style="list-style-type: none"> ・2月末日 株主さまご優待券4,000円分及び魚沼産こしひかり 3kg ・8月末日 株主さまご優待券4,000円分 300株以上1,000株未満所有の株主 <ul style="list-style-type: none"> ・2月末日 株主さまご優待券6,000円分及び魚沼産こしひかり 3kg ・8月末日 株主さまご優待券6,000円分 1,000株以上所有の株主 <ul style="list-style-type: none"> ・2月末日 株主さまご優待券10,000円分及び有名ブランド米5kg、イオンギフトカード4,000円分、胡蝶蘭、飲むトマト1,000ml 3本セットの中からいずれか1つ ・8月末日 株主さまご優待券10,000円分 <p>株主さまご優待券の対象施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モリーファンタジー、モリーファンタジー f、PALO (メダル、メダル有料イベント、体感ゲーム、定置乗り物、メリーゴーランド、スキッズガーデン、わいわいぱーく、のびっこ、よくばりパス) ・OYUGIWA (入館料のみ)、キッズーナ (施設利用料のみ)、ちきゅうのいわ (施設利用料のみ)、にこはびきつず (施設利用料のみ)、ミューの森 (現地決済の宿泊・日帰りBBQのみ)

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第27期)(自 2022年3月1日 至 2023年2月28日)2023年5月19日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2023年5月19日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

(第28期)第1四半期(自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)2023年7月14日関東財務局長に提出。

(第28期)第2四半期(自 2023年6月1日 至 2023年8月31日)2023年10月13日関東財務局長に提出。

(第28期)第3四半期(自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)2024年1月12日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

2023年5月22日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2024年5月21日

株式会社イオンファンタジー
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 武井雄次

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 五十嵐大典

<連結財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社イオンファンタジーの2023年3月1日から2024年2月29日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社イオンファンタジー及び連結子会社の2024年2月29日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

日本及び中国の固定資産に係る減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性

監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由

株式会社イオンファンタジー及び連結子会社はアミューズメント施設を日本国内、中国及びアセアンにおいて展開している。当連結会計年度末において連結貸借対照表に計上されている有形固定資産の金額は30,297,597千円であり、当該金額は連結貸借対照表の資産合計（52,303,062千円）の58%を占めている。このうち親会社である株式会社イオンファンタジーが日本国内に所有する有形固定資産残高は18,055,251千円、永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司が中国国内に所有する有形固定資産残高は3,669,260千円である。また、【注記事項】（セグメント情報等）に記載のとおり、特に中国事業セグメントにおいて経済活動の不透明感の継続と感染症の流行による影響を受け、同事業セグメントの損益額は、前連結会計年度が△2,782,559千円、当連結会計年度が△2,343,012千円と、セグメント損失が生じている状況にある。さらに、当連結会計年度における同事業セグメントにおける減損損失の金額は828,413千円であり、連結損益計算書の減損損失の金額1,078,304千円の77%を占めている。

会社は、固定資産の減損会計の適用にあたり、原則として各店舗を一つの資金生成単位として減損の兆候の有無を判定している。減損の兆候が識別された店舗については、当該店舗の将来キャッシュ・フローを見積り、国内の店舗については割引前将来キャッシュ・フローの合計額が固定資産帳簿価額を下回った場合、中国の店舗については回収可能価額が固定資産帳簿価額を下回った場合、固定資産帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失を計上している。回収可能価額は、国内事業セグメントは資産グループの正味売却価額又は使用価値、中国事業セグメントは使用価値により算定しており、店舗固定資産の使用価値は、将来キャッシュ・フローを割引率で割り引いて算定している。

固定資産の減損会計の適用において用いられる割引前将来キャッシュ・フローまたは使用価値の見積りは、各店舗の売上高及び売上総利益率予測、各店舗の人件費及び経費のそれぞれの予測のような重要な仮定に基づき店舗ごとに策定された翌期予算を基礎として作成される。これらの重要な仮定は出店するショッピングセンターの営業状況、競合企業の有無及びアマミューズメントコンテンツの流行等といった予測が難しい外部要因の変化や、店舗営業活性化のための投資や当該変化に対応するための自社の販促施策等のような内部要因により影響を受ける。また、当該将来キャッシュ・フローの見積りは、連結財務諸表注記（重要な会計上の見積り）に記載のとおり、中国事業セグメントの各店舗においては、経済活動の不透明感や消費ニーズの変化などによる影響を勘案し、2025年2月期の売上高は段階的に回復するとの仮定に基づいて見積られている。店舗ごとの将来キャッシュ・フローの見積りは複数の仮定に基づいており、外部環境の変化に加えて、各店舗別に実施する営業施策の結果にも影響を受けるため、経営者による主観的な判断を伴うものである。

以上より、当監査法人は、日本及び中国の固定資産に係る減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性が監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。

監査上の対応

当監査法人は、日本及び中国の固定資産に係る減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性に関し、主として以下の手続を実施した。

(1) 内部統制の評価

会計上の見積りに関する内部統制、すなわち、各店舗の翌期予算の作成者の経験と能力、当該計画の作成等に利用されたデータの網羅性、目的適合性及び正確性を判断した方法、また、経営者による各店舗の将来キャッシュ・フロー見積りに含まれる重要な仮定等の査閲及び承認の仕組みについて理解をするとともに、運用評価手続を実施した。評価に当たっては、割引前将来キャッシュ・フローの見積りにおいて不合理な仮定が採用されることを防止又は発見するための統制に特に焦点を当てた。

(2) 将来キャッシュ・フローの見積りの合理性の評価

前連結会計年度の減損会計の適用にあたり利用された将来キャッシュ・フローの見積りと当連結会計年度の実績とを比較し、経営者の見積りの信頼性や不確実性の程度を評価した。

現在の企業環境についての理解及び今後の事業戦略と中期経営計画について経営者へ質問した。また、取締役会等の議事録を閲覧し、減損会計の適用において用いられる各店舗の翌期予算及びそれ以降の事業年度の業績見積りと承認された計画等との整合性を検討した。

将来キャッシュ・フローの見積りに含まれる重要な仮定の合理性を検証するために、以下の手続を実施した。

- ・ 検討対象店舗の売上高及び売上総利益率予測について、過去実績に基づく分析、計画している営業施策等の内容に関する経営者等への質問及び店舗営業活性化のための投資が与える影響の評価
- ・ 検討対象店舗の人件費及び経費のそれぞれの予測額について、人員体制の方針や経費削減策等の内容に関する経営者等への質問による実行可能性の検討
- ・ 企業環境に関する経営者等への質問の回答との整合性、利用可能な外部データの閲覧、過去実績からの趨勢分析及び関連資料の閲覧による当該仮定の合理性の評価
- ・ 中国の店舗については、経営者等により実施された複数の将来業績シナリオに基づく感応度分析を査閲し、各店舗の予算達成率に関する見積りの仮定の変化に伴う影響の評価

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

<内部統制監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社イオンファンタジーの2024年2月29日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社イオンファンタジーが2024年2月29日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

<報酬関連情報>

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- ※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2024年5月21日

株式会社イオンファンタジー
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 武井雄次

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 五十嵐大典

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社イオンファンタジーの2023年3月1日から2024年2月29日までの第28期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社イオンファンタジーの2024年2月29日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

日本国内の固定資産に係る減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性

監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由

株式会社イオンファンタジーはアミューズメント施設を日本国内において展開している。当事業年度末において貸借対照表に計上されている有形固定資産の金額は18,055,251千円であり、当該金額は貸借対照表の資産合計（51,477,436千円）の35%を占めている。

会社は、固定資産の減損会計の適用にあたり、原則として各店舗を一つの資金生成単位として減損の兆候の有無を判定している。減損の兆候が識別された店舗については、当該店舗の将来キャッシュ・フローを見積り、割引前将来キャッシュ・フローの合計額が固定資産帳簿価額を下回った場合、固定資産帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失を計上している。回収可能価額は正味売却価額又は使用価値により算定しており、店舗固定資産の使用価値は、将来キャッシュ・フローを割引率で割り引いて算定している。

固定資産の減損会計の適用において用いられる割引前将来キャッシュ・フローの見積りは、財務諸表注記（重要な会計上の見積り）に記載のとおり、各店舗の売上高及び売上総利益率予測、各店舗の人件費及び経費のそれぞれの予測のような重要な仮定に基づき店舗ごとに策定された翌期予算を基礎として作成される。これらの重要な仮定は出店するショッピングセンターの営業状況、競合企業の有無及びアミューズメントコンテンツの流行等といった予測が難しい外部要因の変化や、店舗営業活性化のための投資や当該変化に対応するための自社の販促施策等のような内部要因により影響を受ける。店舗ごとの将来キャッシュ・フローの見積りは複数の仮定に基づいており、外部環境の変化に加えて、各店舗別に実施する営業施策の結果にも影響を受けるため、経営者による主観的な判断を伴うものである。

以上より、当監査法人は、日本国内の固定資産に係る減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性が監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。

監査上の対応

当監査法人は、日本国内の固定資産に係る減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性に関し、主として以下の手続を実施した。

(1) 内部統制の評価

会計上の見積りに関する内部統制、すなわち、各店舗の翌期予算の作成者の経験と能力、当該計画の作成等に利用されたデータの網羅性、目的適合性及び正確性を判断した方法、また、経営者による各店舗の将来キャッシュ・フロー見積りに含まれる重要な仮定等の査閲及び承認の仕組みについて理解をするとともに、運用評価手続を実施した。評価に当たっては、割引前将来キャッシュ・フローの見積りにおいて不合理な仮定が採用されることを防止又は発見するための統制に特に焦点を当てた。

(2) 将来キャッシュ・フローの見積りの合理性の評価

前事業年度の減損会計の適用にあたり利用された将来キャッシュ・フローの見積りと当事業年度の実績とを比較し、経営者の見積りの信頼性や不確実性の程度を評価した。

現在の企業環境についての理解及び今後の事業戦略と中期経営計画について経営者へ質問した。また、取締役会等の議事録を閲覧し、減損会計の適用において用いられる各店舗の翌期予算及びそれ以降の事業年度の業績見積りと承認された計画等との整合性を検討した。

将来キャッシュ・フローの見積りに含まれる重要な仮定の合理性を検証するために、以下の手続を実施した。

- ・ 検討対象店舗の売上高及び売上総利益率予測について、過去実績に基づく分析、計画している営業施策等の内容に関する経営者等への質問及び店舗営業活性化のための投資が与える影響の評価
- ・ 検討対象店舗の人件費及び経費のそれぞれの予測額について、人員体制の方針や経費削減策等の内容に関する経営者等への質問による実行可能性の検討
- ・ 企業環境に関する経営者等への質問の回答との整合性、利用可能な外部データの閲覧、過去実績からの趨勢分析及び関連資料の閲覧による当該仮定の合理性の評価

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

<報酬関連情報>

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※ 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年5月22日
【会社名】	株式会社イオンファンタジー
【英訳名】	AEON Fantasy Co., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤原 徳也
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役兼常務執行役員 管理統括兼リスクマネジメント担当 井関 義徳
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長藤原徳也及び取締役兼常務執行役員管理統括兼リスクマネジメント担当井関義徳は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である2024年2月29日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行っております。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社及び連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しております。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しております。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の当連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）を基準として、当連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の概ね2/3に達している当社を「重要な事業拠点」としております。選定した重要な事業拠点においては、企業目的に大きく関わる勘定科目として、売上高、仕入高、棚卸資産及び固定資産に至る業務プロセスを評価の対象としております。

さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、代表取締役社長藤原徳也及び取締役兼常務執行役員管理統括兼リスクマネジメント担当井関義徳は、当連結会計年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年5月22日
【会社名】	株式会社イオンファンタジー
【英訳名】	AEON Fantasy Co., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤原 徳也
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役兼常務執行役員 管理統括兼リスクマネジメント担当 井関 義徳
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長藤原徳也及び取締役兼常務執行役員管理統括兼リスクマネジメント担当井関義徳は、当社の第28期（自2023年3月1日 至2024年2月29日）の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。